



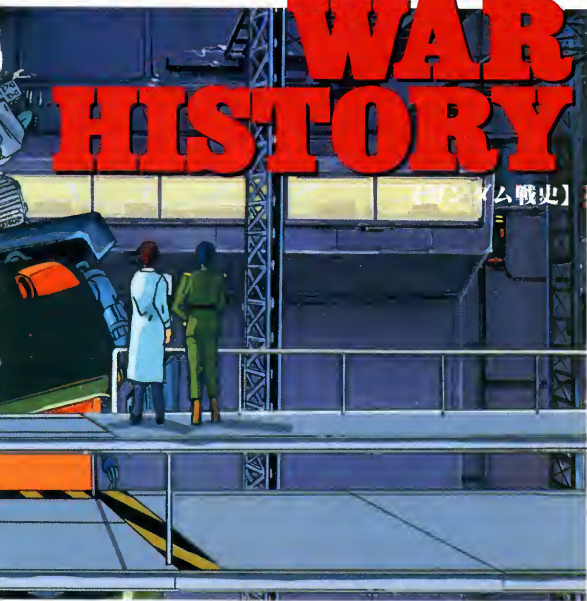
機動戦士ガンダム

MS大図鑑

PART.4

【MS開発戦争編】

GUNDAM WAR HISTORY



【ガンダム戦史】

公国内秘密ツッキ

1. 開戦前夜

宇宙世紀0073……、

一年戦争を数年後にひかえ、ジオン公国内部において、プロトタイプ4号機MS-04の最終調整が進められている。戦闘用としての装甲強化が計られたプロトタイプ3号機MS-03では、装甲による増重量とジェネレーターの出力不足により、予定した機動性を得ることができなかった。このままでは、主力兵器として運用することはできない。頭を抱えていた軍開発首脳部にひとつの朗報がもたらされる。かねてより開発中であったミノフスキー物理学を応用した高出力タイプのジェネレーターが完成したのだ。この

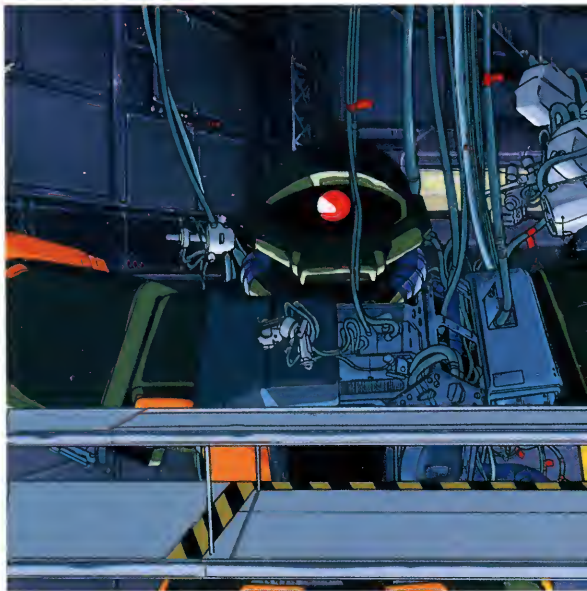
ジオン軍を開戦へと踏み切らせたのは、MSの存在である。圧倒的物量を誇る連邦軍に対しては、戦略的位置を一気に覆すファクターが必要だったのだ。ザクの威容はそれだけで戦意を鼓舞した。

【第4章】「MS開発戦争」

原画：スタジオマーク（松田宗一郎・永田正美）

仕上げ：スタジオK 背景：スタジオブーカ（金子英俊）

特効：マリックス



新型ジェネレーターは、予想以上の出力を発生することが可能だった。このため、プロトタイプ4号機MS-04は、さらに装甲を強化しながらもプロトタイプ3号機MS-03の2倍以上の機動性を持つに至った。ようやく、MS（モビルスーツ）は実戦に耐える兵器となったのである。このプロトタイプ4号機MS-04を使用して、数々の戦闘シミュレーションが行なわれた。シミュレーション結果を元に、各所の装甲の改良や、武装が検討された。

そして宇宙世紀0074、初期量産型MS-05、ザクIと名づけられた機体の製造が開始された。このときより、それまでの戦術兵器の思想を一変させるMSの歴史が始まったのだ。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



2. 戦乱の渦中で

「インシロン・レーダー」

宇宙世紀0087……、

地球圏は戦乱のまっただなかにあった。連邦軍内部の急進派ティターンズ、反地球連邦組織エウーゴ、ネオ・ジオン、地球各所に散らばったジオン軍の残党、木星の独立勢力ジュビトリス、それぞれの思惑が絡み合い、争いはいつ果てるともなく続いていた。戦いの主役は、当然MSだった。この時期、MSはそれまでにないほどの多種類の機体を生む。各組織がそれぞれの仕様でMSを作り出していったためだが、試作機やバリエーションタイプを加えると軽く百をこえる機種が戦場に送り出されて行ったことになる。

この時期、種々雑多なバリエーションが生まれた。MSの進化の枝葉にあたる機体には、怪物的としかいえない能力を有するものもあった。サイコガンダムなどはその代表的な例だろう。



機体の種類の多さにあいまって、局所的な戦いがあちこちで繰り広げられていた。

同年11月16日、エウーゴでクワトロ・バジーナと名乗っていたシャア・アズナブルは、ダカールの連邦会議において自らの正体をジオン・ダイクのの息子であることを明かし、全世界に向けティターンズの悪を訴えた。このため、ティターンズとエウーゴの立場は逆転する。ティターンズ側は、よりゲリラ的な戦いを展開することになる。その余波を受けて11月20日、月の工業都市イブシロン近辺でフルアーマー百式改と量産型サイコガンダムとの戦いが行なわれた。このような大量量産機でない機体同士の戦闘が、この時代のMSというものを象徴しているように思えてならない。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



3. 戦乱の終局

「月軌道上」

宇宙世紀0093……、

地球圏は、新たなジオンの脅威にふるえていた。いつ、軌道上で全面戦争が始まってもおかしくない状況だった。

しかし、連邦ではそれまでのように大量の試作機は作られず、現有機体のマイナーチェンジ・バージョンを作るにとどまっていた。レガンダムやリ・ガズィなどの高性能機が誕生していたが、いぜん主力はジェガンのみで、ネオ・ジオンの主力機であるドーガシリーズと比べると明らかに戦力不足であった。ネオ・ジオンとの戦いが長期化したときに、戦局を打開するためにレガンダムの量産型が企画された。

この時期のMSは多岐にわたる高性能を追及するあまり、進化の袋小路に陥った感がある。全長の平均は20mを越えており、これ以上の能力を求めれば平均30mを越えるのもそう遠くなかったであろう。



しかし、93年3月のネオ・ジオン抗争の終結とサイコフレールなど新素材の使用のコストが予想以上に高いことから計画段階で凍結された可能性がある。このスナッフは、一般パイロット用にインコムを装備したバックパックをつけたRX-94のテスト風景である。ただし、バックに写っているのが月面なので、ネオ・ジオンとの戦闘時期のものではなく、終結してからのものだろう。と、すれば連邦の開発部が次期主力機のためにテストを行なっていたときのものと考えられる。この時期以降、MSは強力な内部兵装、革新的な新機構をもちこむためにその大きさを保てなくなり、より巨大、高出力化していくことになる。MSの恐竜的進化は限界に達していた。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



4. 新たな戦いの序曲

「再び宇宙へ」

宇宙世紀0011……、

ネオ・ジオンとの戦争から今日まで大きな戦乱は、起こっていなかった。もちろん、連邦に対する反対運動は収まることを知らなかったが、それ以前の戦乱の時期に比べれば平和な時代だったといえよう。しかし、このあとに起こる争いの時代を予感させるかのように連邦軍は、次期主力MSの開発を始める。ひとつにはMSが余りにも大型、高性能化し過ぎたために、MSを運用するための機材関係を含め、MSを大量に導入することがコスト的にばかにならなくなってきたこともある。このため、軍はMSの基本概

F90は、高性能機が大型でなければ
ならないという神話を覆した。

今後のMSは、F90に代表されるよ
うな約半分の全長でより以上の性
能を出せるようなタイプが主流に
なって行くことだろう



念である『汎用人型兵器』を満たす機体を欲したので。関連企業に通達が出され、その中で勝ち残ったのは今までMSに関してほとんど独占状態であったアナハイム社ではなく、連邦の研究機関的団体だったサナリイ社だった。サナリイの提唱したMSの体系が『F(フォーミュラ)』シリーズである。

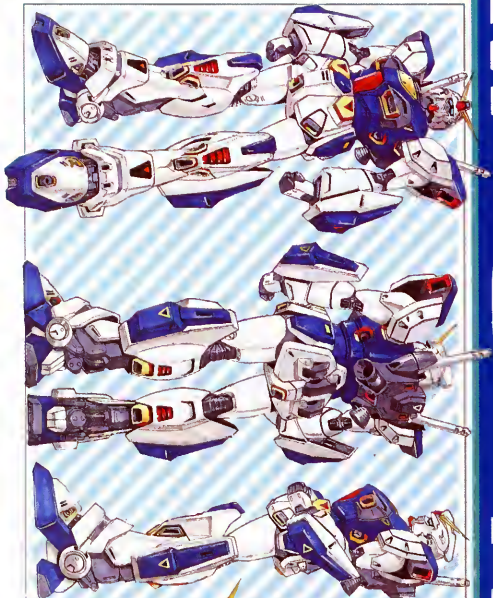
そして、宇宙世紀0120、テストヘッドとなる機体、F90が完成する。連邦軍の主力機の伝統にのっとって『ガンダム』の名が冠せられ、数々のテストが開始された。白き巨人の復活とともに、地球圏は再びきな臭い雲霧気を漂わせ始めたようだ。MSを中心とした戦乱の時代がすぐそこに迫っているのかもしれない……。

MS 鑑

F90
ガンダムF90

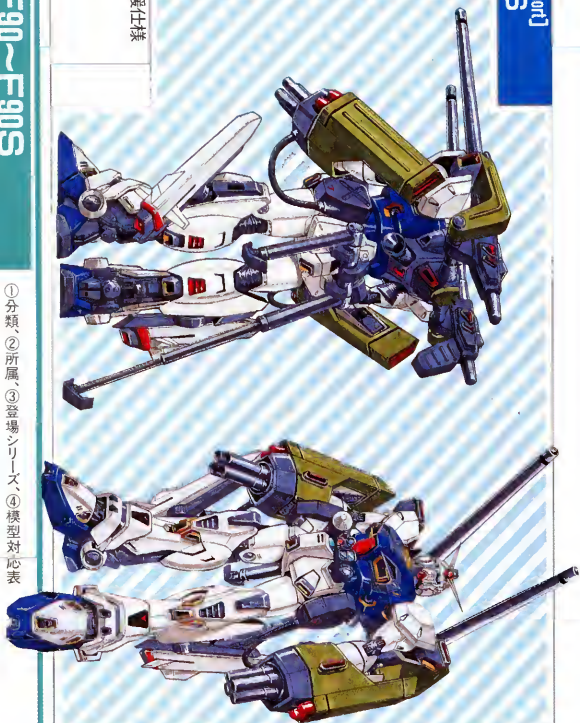


- ① 多目的型モビルスーツ
- ② 連邦軍
- ③ GUNDAM F90
- ④ 1/100

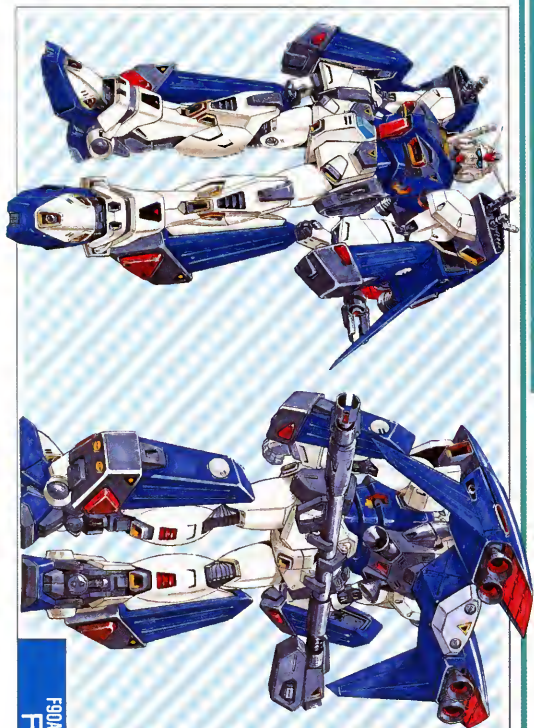


F90S[support]
F90S

- ① F90長距離支援仕様
- ② 連邦軍
- ③ GUNDAM F90
- ④ 1/100



① 分類、② 所屬、③ 登場シリーズ、④ 模型対応表



① F90長距離狙

攻仕様

② 連邦軍

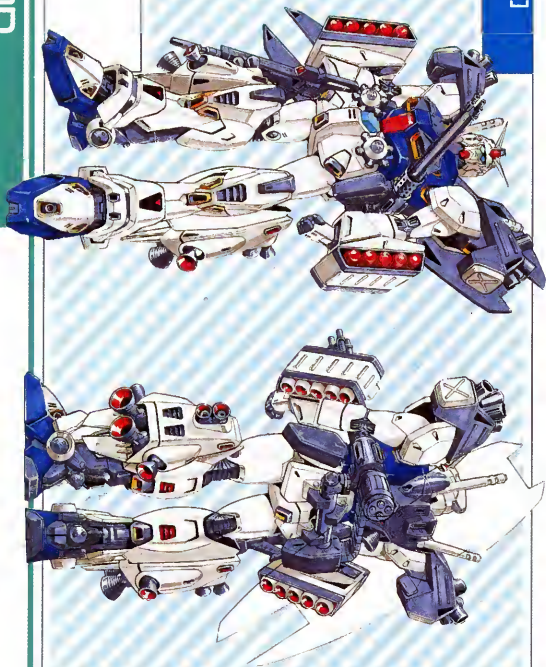
③ GUNDAM F90

④ 1/100

F90A[Assault]
F90A

F900[destroyed]
F90D

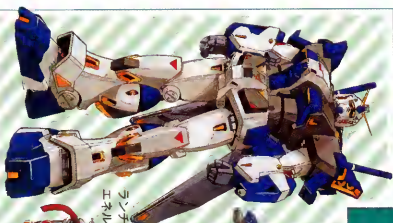
- ①F900接近戦仕様
- ②連邦軍
- ③GUNDAM F90
- ④1/100



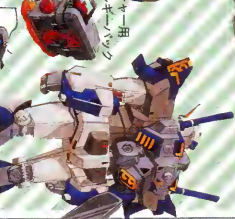
ガンダム4号機～ガンダム5号機

RX-78-4
ガンダム4号機

メガビームランチャー

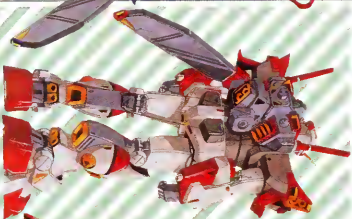


ランチャー用
エネルギーパック



RX-78-5
ガンダム5号機

ハイパービームライフル



①汎用試作型MS

②連邦軍

③MSコレクション

④—

①汎用試作型MS

②連邦軍

③MSコレクション

④—

RX-78-6
ガンダム6号機



- ①汎用試作型MS
- ②連邦軍
- ③MSコレクション
- ④—

RX-78-7
ガンダム7号機



- ①汎用試作型MS
- ②連邦軍
- ③MSコレクション
- ④—

ヒールライフル

シールド



ヒールライフル

水中用
ライフルカバー

RAG-79-G1
水中型ガンダム

ビームライフル

潜水鏡

①水陸両用試作型MS

②連邦軍

③MSコレクション

④—



RAG-79 マクアGM

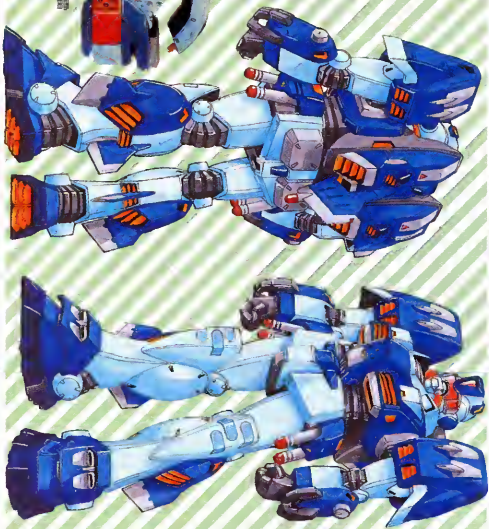


ビームピック
後期タイプ
は、通常のサ
ーベルの10%
程度の長さにな
る

ミサイル
ランチャーガン

対艦大型魚雷

- ①水陸両用試作型MS
- ②連邦軍
- ③MSコレクション
- ④—



RGM-79
陸戦用GM

ビーム
スプレーガン

シールド

レールキャノン

- ① 陸戦用量産型MS
- ② 連邦軍
- ③ MSコレクション
- ④ —



RGM-79 デザートGM

- ①砂漠戦用量産型MS
- ②連邦軍
- ③MSコレクション
- ④—



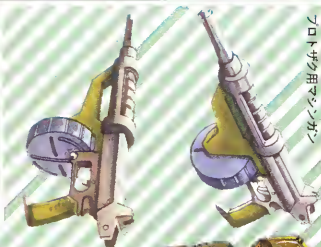


RX-77-1A
ガンキャノンA

- ① 初号機戦用試作型MS
- ② 連邦軍
- ③ MSCコレクション
- ④ —

MS-04 プロトタイプザク

プロトザク用マシンガン



- ①汎用試作型MS
- ②公国軍
- ③MSコレクション
- ④—



MSM-02
水中実験機



背部
対空・対艦
ミサイル



背部収納式
ノミカパンボツド

- ①水陸両用試作型MS
- ②公国軍
- ③MSコレクション
- ④——

MSM-03-1

プロトタイプゴッグ

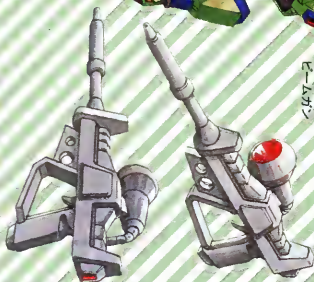
ハンド
魚雷ボット

- ①水陸両用試作型MS
- ②公国軍
- ③MSコレクション
- ④—



MS-06R-3S
高機動型ザク

ビームガン



- ① 機構試作型MS
- ② 公国軍
- ③ MSコレクション
- ④ —

RX-098 プロトタイプツクティクス

クレイバズーカ

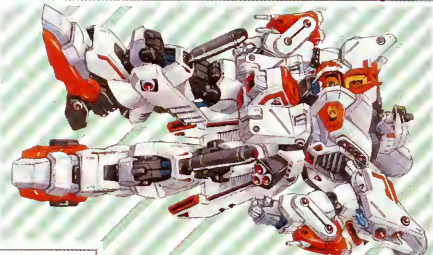
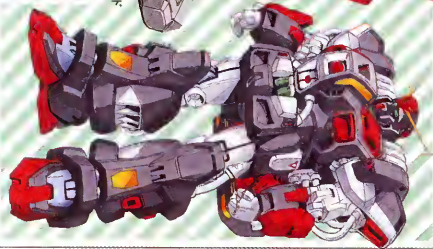
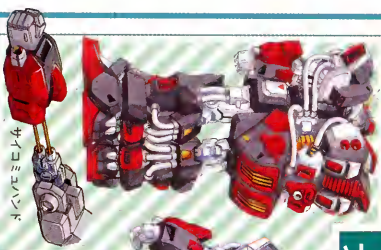


- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③MSコレクション
- ④—



MRX-007 フロトタイサイコガンダム

MRX-011 量産型サイコガンダム



- ①NT専用試作型MA
- ②テイクターンズ
- ③MSコレクション
- ④—

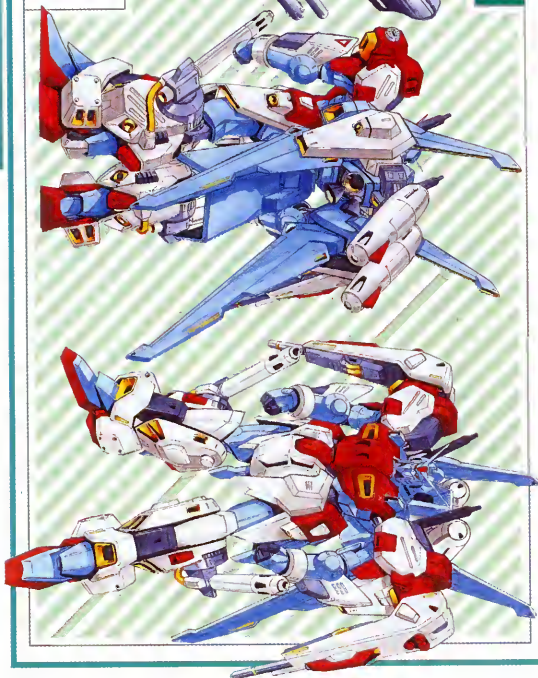
- ①NT専用試作型MA
- ②テイクターンズ
- ③MSコレクション
- ④—

FA-007G III
フルアーマーガンダムMK-II

ビームライフル



- ①増加装甲装備汎用試作型MS
- ②エウロイ
- ③MSコレクション
- ④——





ビームキャノン

メガバスター

FA-100S
フルアーマー百式改

- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウロ
- ③ MSコレクション
- ④ _____

MSK-100S 陸戦用百式改

ビームライフル

ウエポンラック

- ① 増加装甲装備汎用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ MSコレクション

シールド





MSZ-009(一2)
プロトタイプZZガンダム

グロウ

グロウ

ハイ・メガ砲

背部キャノン砲

- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウロ
- ③ MSコレクション
- ④

MSZ-013
量産型Zガンダム

ビームライフル

- ① 攻撃用 量産型MS
- ② エウーゴ
- ③ MSコレクション
- ④ —



RX-94
量産型ガンダム

サイコム
ユニット

インコム

フアンネル
装備

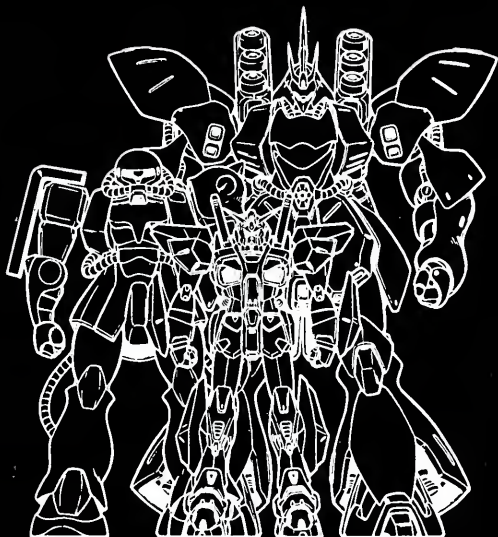
ビーム
カノン
サームル

フアンネル
ジョイント部

ビームスプレーガン

ビームサーベル

- ① 攻撃用 量産型MS
- ② 連邦軍
- ③ MSコレクション
- ④ _____



モビルスーツ

MS開発史

M.S. Development History

●MSは、UC70年代に開発され、その後、様々な高性能機が登場する。しかし、その時期の傑作機が生まれる背後では、多くの実験、試作が繰り返された。ここでは、これまで明らかにならなかったものを始めとして、最新の実験機までを紹介し、開発背景を総合的に解説する。

MS開発史

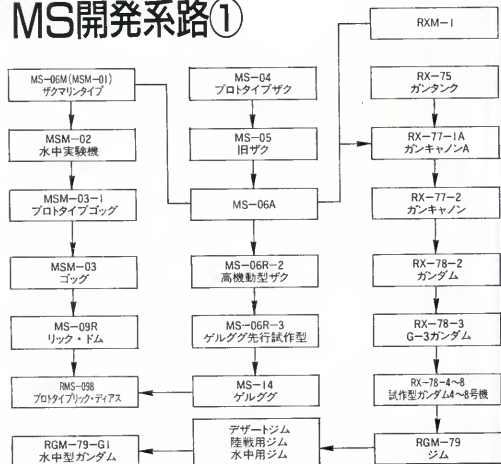
ミッシングモビルスーツ(M・MS)

宇宙世紀0070年代に技術が確立されたMS（モビルスーツ）は、その実効性から、急速な進化を遂げ、様々な用途に使用されるようになっていった。ただし、主な使途は戦争におけるもので、破壊と殺戮が、MSの役目となっていた。ジオン公国が作り出したザクは、地球連邦に対して戦争を仕掛けるために作られ、MSそのものの運命も、戦争と切り離して考えることは不可能である。MSそのものが、戦術汎用宇宙機器という構想の元に確立された技術の集大成であるため、MSは、戦争があり、または戦争の危機が想定される時でなければ存在できないものだった。

一年戦争以降、MSの存在が定着してしまったため、その効果と脅威は無視することのできないものとなった。攻守を問わず、MSの運用は戦略上必要不可欠なものとなっていた。戦時下でなくとも、宇宙移民に対して恒常的に危機感を抱いていた地球連邦は、常に高性能のMSを求めていた。実際、終戦後も、ゲリラ化した公国軍残党が各地で活動していたのだ。また、コロニーの新規建設がはかどらない状況で軍需、重工業、宇宙開発産業が、MS開発に興味をもったことも要因のひとつに数えることができる。

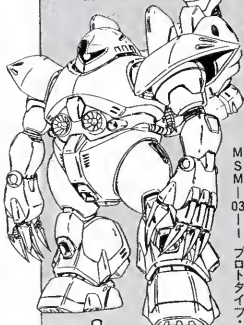
一年戦争中から、MSの開発に躍起になっていた連邦軍

MS開発系路①

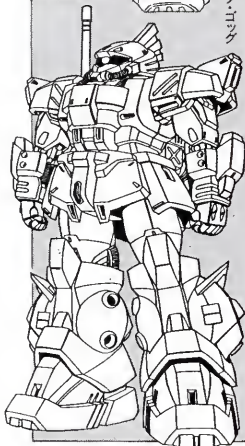


MSM-02

水中実験機

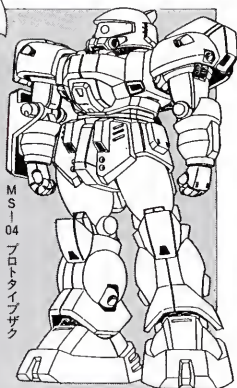


MSM-03-1 プロトタイプ・ゴッグ



MS-06R-3S 高機動型ザク

MS-04 プロトタイプザク



は、終戦後、旧公国軍の技術者を大量に投入し、制式採用機以外にも様々なMSを作りだしていった。一般に、MS V（モビルスーツ・バリエーション）と呼ばれるこれらの機体は、戦後間もなく、連邦の技術的優位を喧伝するために公開されたが、実質的に、軍事機密に抵触する事柄や、技術をもつ機体の存在は伏せられていた。また、机上のプ

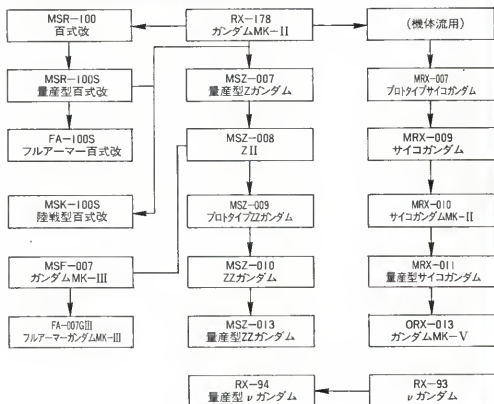
ランだけで終わったMSも多かった。それらが、便宜上M・MS（ミッシング・モビルスーツ）と呼ばれるMSである。これらの機体は、その存在が長期に渡って隠蔽され、極秘情報となっていたが、周辺技術が民生用に転用されたり、連邦本部の移転が相次いだりしたなかで漏洩したため、時効として、公開されたものである。

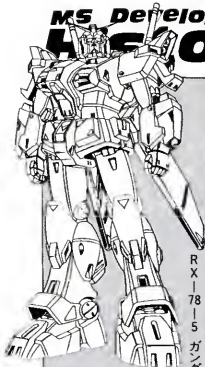
一年戦争時のMS開発事情

一年戦争時に作られたMSは、その後のMSの基盤となる技術を確立させるため、様々な試みがなされている。ミノフスキー粒子散布下における優位性が抜きん出ていることがMSの特徴だが、汎用性に富んでいることもまた、運用初期の段階で確認されていた。そのため、通常は既成の兵器や軍用車両、整備設備などが行なう事柄を、MSに追加装備を施すことによって兼任させたのである。また、従来の兵器では遂行不可能な任務に充てるため、水陸両用の機体などの開発も行なわれた。さらに機動兵器そのものの概念も変化し、MAなどの開発が再開されたのも、MSの実戦での

運用があったからである。当時は、連邦も公国軍も、MS製造以外の生産ラインは、消耗品のものを除いてほとんどがMSの生産に振り向けられていたため、補給ラインに乗るものも、ほとんどがMS関連の物資だった。また、このことが、通常兵器よりも多くの機能をMSに持たせるきっかけになったということができることに、一年戦争後期の公国軍の補給路の確保は困難で、前線の部隊は使えるものは片端から流用し、戦力の確保に躍起になっていたのだ。そのため、この時期、連邦にせよ公国軍にせよ、最前線においては無数のマイナーバージョンが存在する。

MS開発系路②

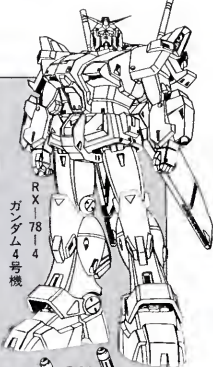




RX-78-1 5 ガンダム5号機



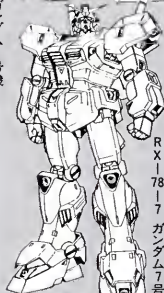
RX-77-1A ガンキャノンA



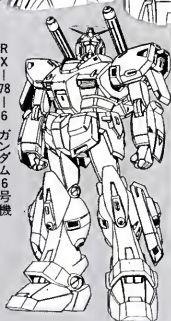
RX-78-4
ガンダム4号機



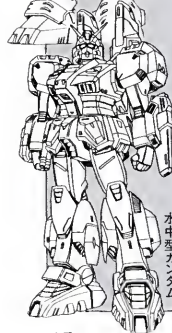
RGM-79 陸戦用GM



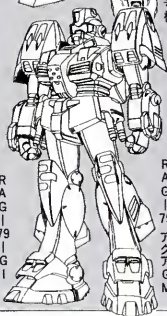
RX-78-6 ガンダム6号機



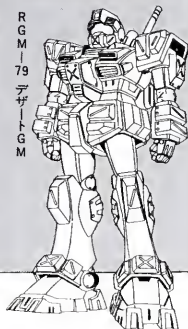
RX-78-7 ガンダム7号機



RAG-79-1 G1
水中型ガンダム



RAG-79 アクアGM



RGM-79 デザートGM

グリプス戦争時のMS開発事情

一年戦争から、連邦軍の内紛が契機となって、大規模な戦闘に発展するグリプス戦役までの期間、各地のゲリラと小競り合いを除けば、地球の状況は、おおむね平穏だったと言えるかも知れない。しかし、実際には、頻発するゲリラに対抗するため、各地の研究施設では、一年戦争時に劣らない体制でMSの開発が進められていた。公国軍の研究施設や人員を吸収したことによって、連邦のMS研究開発は急ピッチで進められた。一説には、核兵器を搭載したMSまで作られたという未確認情報もあるが、真偽のほどは定かではない。

この時期に、一年戦争後期

から開発が進められていたりニアシートと全天周型のコクピットなどの技術が確立された。さらに、生産性と耐久性向上のため、ムーバブル・フレームの概念が提案され、また、構造材や装甲材そのものの基礎研究も、新しい段階にはいつていた。無論、一年戦争時に目覚ましい戦果を上げたニュータイプ対応の研究も行なわれていた。これも後にインコムシステムとして確立されることになる。

これらの新技術は、連邦内部の軋轢、すなわち、エウーゴとティターンズの対立が表面化することによって、その効果が確認された。さらに、これらの技術を踏まえた上で、

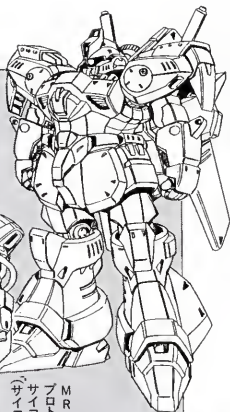
TMS（トランスフォーミング・モビル・スーツ）あるいは、Zプロジェクトによって、画期的なMSが次々と作られることになった。TMSは、ムーバブル・フレームの技術がなければ不可能であったし、ZプロジェクトMSも、構造材などの基礎技術の向上がなければ、実現できなかっただろう。これらの技術を手に入れたことによって、MSは、新しい段階に入っていた。ところが、これらの技術は、連邦と、アステロイドベルトに逃亡していたジオン残党のアクシズの技術が、水面下でつながっていたからこそ実現できたのだ。それぞれの第二世代MSは、エウーゴとアクシズが持つ先端技術による互いの素材と構造が、アナハイム・

エレクトロニクスを介することによってつながり、完成するのである。そして、この第二世代MSは、以後のMSのスタンダードとなり、基本的には、F（フォーミュラ）シリーズが登場する0120年代まで、戦闘の主力を務めることになるのだ。ここである第二世代とは、年代的な分類ではなく、機能的なものである。（詳細はMS大図鑑パート2を参照のこと）

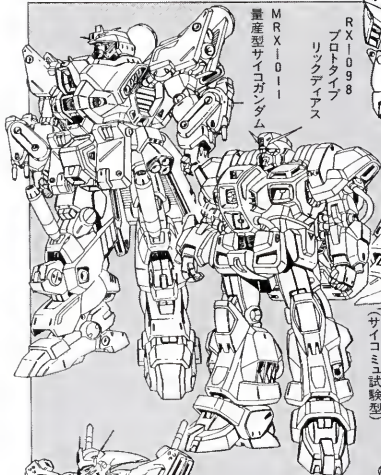
この時期は、新素材の開発や、Zプロジェクトの存在によって、一年戦争時をも越えるペースで、新型MSの開発が進んだ。むろん、ティターンズとエウーゴの反目の他に、アクシズの地球圏接近が、連邦軍に危機感を抱かせたことも理由のひとつだろう。



MS Development History

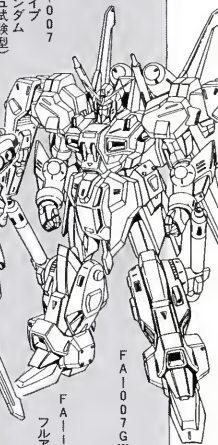


RX-109 8
プロトタイプ
リックディアス



MRX-100 1
量産型サイコガンダム

MRX-100 7
プロトタイプ
サイコガンダム
(サイコミュ試験型)



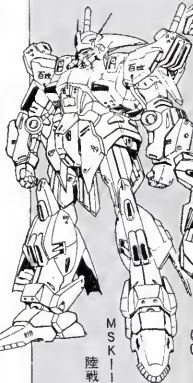
FA-100 7 GIII

FA-100 5
フルアーマー
百式改



MSK-100 5

陸戦型百式改



アクシズ戦争時のMS開発事情

アクシズが地球圏に侵入し、前後する形で、ティターンズとエウーゴの戦闘は激化し、アクシズの干涉によって、戦局は一進一退を繰り返すが、連邦の内紛は、最終的にエウーゴの勝利に終わった。それまでの間に、各陣営間で技術供与や機体の提供が幾度となく行なわれ、MSは、より大きく、強く、多機能になっていった。さらに、この時期の特徴としてあげることができるのが、サイコミュ技術の応用と確立であった。一年戦争当時は、パイロットの資質があつて初めて成立したサイコミュだったが、連邦においてもアクシズにおいても研究が進められ、ニュータイプ能力のな

いパイロットでも扱えるインコムシステムや、ドーピングや生体改造によって産み出された人工的ニュータイプともいえる強化人間など、ドラステックな技術が次々と実戦に投入された。この時期、MSは、恐竜的な進化を遂げていった。様々な機能や能力を無制限に投入し、ある意味でMSのパイロットは、MSの機体の一部品に過ぎず、強力なMSを作ることが、なによりも優先された。そのため、一年戦争当時に見られた、局地戦用のMSよりも、さらに限定された機能の追求がなされた。それは、火力、推力の増大であり、装甲の強化であった。当然、自重、プロペラント

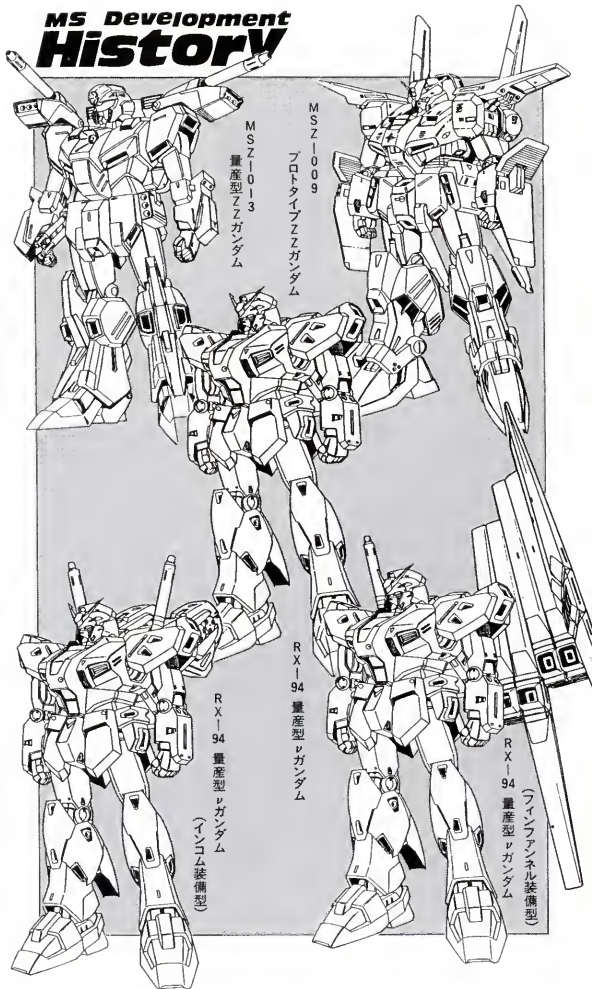
の積載量は増え、そのため、さらに各種機能を強化するといふ悪循環が恒常化した。ところが、この時期は、両陣営とも似たようなコンセプトでMSを作っていたため、極端な戦力差は生まれず、勢力は拮抗していた。

グリプス戦役時に多数作られたTMSを始めとする第三世代のMSを経て、第四世代MS、NT(ニュータイプ)専用MSの技術が確立されたのもこの時期で、第一次ネオ・ジオン抗争の決着は、実質的に連邦とネオ・ジオンのNT専用機でつけられた。ことに、エウーゴとティターンズの抗争を決着させた機体が、Zガンダムやジ・オ、キュベレイなど、NTと目されるパイロットが搭乗した機体だったため、

決戦兵器としての高性能MSの開発に力がいれられたのは無理もないことであった。無論、NTを必要としない機体の開発も進められ、コンビュータのアシストによってNT専用機並の性能を発揮するインコム搭載機も多く作られた。しかし、第一次ネオ・ジオン抗争の終結とともに、軍としてのネオ・ジオンが実質的に崩壊したことにより、これらの技術は連邦軍によって凍結された。突出した性能のMSは、連邦首脳に危機感を抱かせたのだ。一時的には、第二世代の主力MSの配備すらままならない状況だった。その間隙を縫う形で、第二次ネオ・ジオン抗争が表面化し、Zガンダムなど新機種が作られることになった。



MS Development History



MS開発史

シヤアの反乱以降のMS開発事情

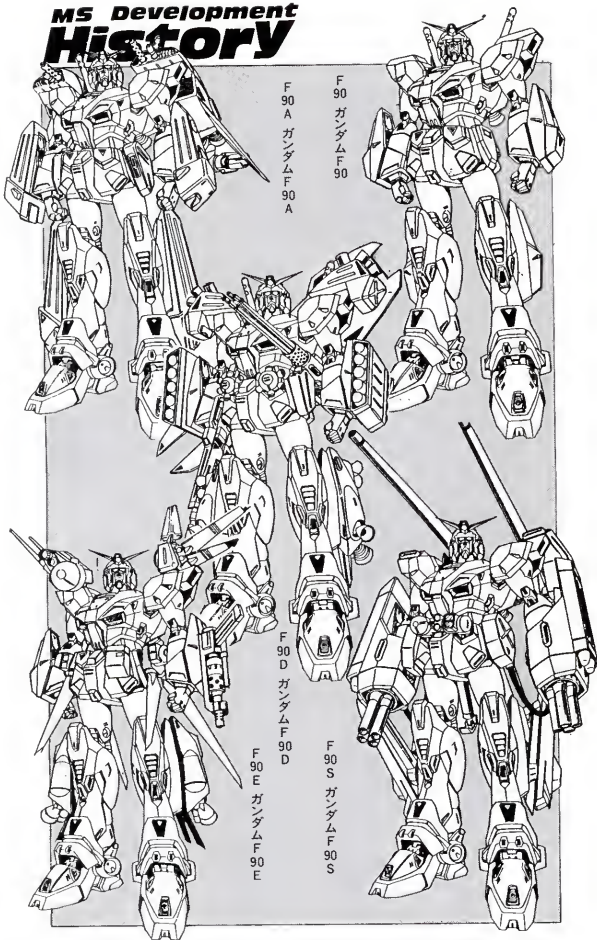
一般に「シヤアの反乱」と呼ばれる第二次ネオ・ジオン抗争において、連邦は辛くも勝利することができたが、反地球連邦運動は、一向に収まらなかった。0100年に、ジオン共和国が自治権を放棄したことで、戦乱消滅の宣言はしたものの、大きな戦闘で人的な被害や施設の破壊工作などが起こることもあった。これらの動乱は、一時的にはおさまることがあっても、根絶することは不可能だった。このことに危機感を抱いた連邦政府首脳は、凍結していたMS新機種開発の再開を決定した。一時的には、**νガンダム**や、**サザビー**などのように、大型で高性能のMS開発を進

め、**ペーネロペー**などの超高性能機の製作とともに、**ジェガン**の後継機となる**グスタフ・カール**などの試験的量産なども行なわれた。ところが、大きな問題が判明した。今までと同様のコンセプトで高性能化を進めていくと、MSは、さらに大型化していくことが明らかにになったのだ。このことはすなわち、戦艦や基地などの各施設も大型化してしまうことを意味する。既存の設備が流用できないとすれば新設するしかないが、それには莫大な費用と期間が必要となる。無論、そのMSを稼働させるために必要となる人員も増加するだろう。そこで、連邦軍は、性能を落とさずに高

性能な小型MSの開発を決定する。これは、0105年以降、表立った反地球連邦運動が鎮静化したことも要因のひとつとしてあげることができ。つまり、連邦軍の主力兵器として定着してしまったMSを、今後も主力として据えていくため、また、その高性能化をスムーズに移行させるためには、いずれかの時点で、基本となる規格を決定し直さなければならぬ。0105年のマフティー動乱以降、大きな戦乱がなかったことから、0111年、連邦軍は新規格MSの製作を決定した。このMSの開発は、連邦へのMS納入で実績をもつアナハイム・エレクトロニクス社と、サイド4に本拠を置くサナリイ社の競合という形で進められた。

サナリイ社は、コロニー公社と関係が深かったため、これまでの、コロニー間の内乱と言い換えることができる紛争の、一方に加担することになる可能性があるMS製造には手を出さなかった。しかし、MSの周辺技術やそのスピノフがあること、また、独自に入手したMS関連技術の試験の機会が欲しかったことなどから、現状では、紛争に巻き込まれる可能性は低いと判断し、連邦軍新規格MSのコンペティションに参加することに決定したのだった。そして開発された小型高性能MSが、アナハイム社の新型MSを下し、次期主力MSとして採用が決定した。それが、**F(フォーミュラ)**シリーズである。

MS Development History



MS

【MS用語辞典①】

アナハイム・エレクトロニクス・エネルギーCAP

アナハイム・エレクトロニクス社 [Anaheim electronics]

地球に本社をもつ巨大企業。一年戦争終結後もとジョン・公国ジオニックス社を吸収・合併し急速にMS開発技術が進歩、あつという間にMS最大手メーカーにのし上がった。MS開発に携わる巨大な工場は、月面のグラナダなどにある。表面の社長はコウエル・J・ガバナンだが、陰ではメラニー・ヒュー・カーバインがその実権を握っていた。

アポジモーター [Apogee motor]

人口衛星を高度3万6千kmの静止衛星軌道に投入するために使用する固体ロケットのことで、アポジ・キック・モーターともいう。

モーターとは一般に固体燃料を使用するロケットを指し、アポジ（遠地点・楕円軌道の最も地球から離れた点）で点火するゆえにこう呼ばれる。

インコム [Incom]

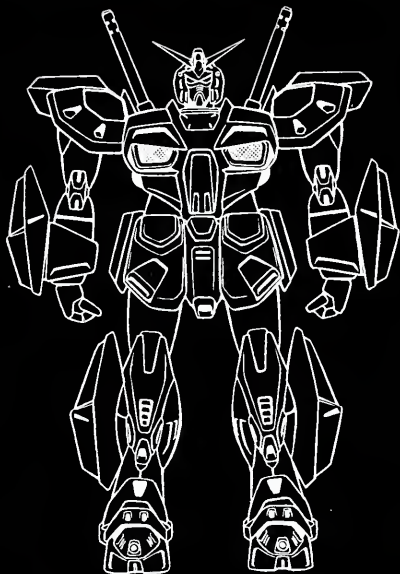
準サイコミュー兵器の一種。平たい円柱形で、有線誘導され内蔵のビームガンで攻

撃する。内部に誘導用のワイヤーが巻かれておりこれを繰り出しながらバルス状のロケット推進をする。ワイヤーはたるまないように微かに張力がかかるようになっており、インコムが飛行方向を変えるときはリレー・インコムと呼ばれる一種の重りをワイヤーに残すので、ワイヤーはピンと張られたままインコムと本体をつなぐ。収容するとき、延ばしたワイヤーを巻戻しつつ同じ軌跡を取って回収する。

エネルギーCAP [energy capacitor]

メガ粒子砲はこの世界の代表的なビーム兵器だが、実用化されて数十年たつても通常型のメガ粒子砲は使用電力が大きく、電力源を

合わせると質量・体積ともに巨大となる。0076年に開発されたエネルギーCAPは、メガ粒子砲の性能を維持したまま小型化するものであり、今でこそ当たり前のものとなっているが実用化された当時MSがビーム兵器を携行できるということは革命的なことだった。エネルギーCAPはミノフスキー粒子が縮退してメガ粒子になる直前の状態で保持、蓄積する装置で、この状態からであれば、MSに可能な範囲の電力を供給しつつメガ粒子を発生させることができる。ただしこれに蓄積された分を撃つてしまうと、母艦なり基地なりで再びチャージしないかぎり発砲不能になる。



モビルスーツ

MS性能比較

An Ability symmetry of M.S.

●MSは、あまりにも多大な戦果をあげたため、多くの要求がなされるようになった。その要求に応えるために、多くの知られざる試作機、実験機が作られた。歴史の陰に隠された、または最新のMSのスペックを紹介する。

Illustration by Shingo Takeba

MS性能比較表

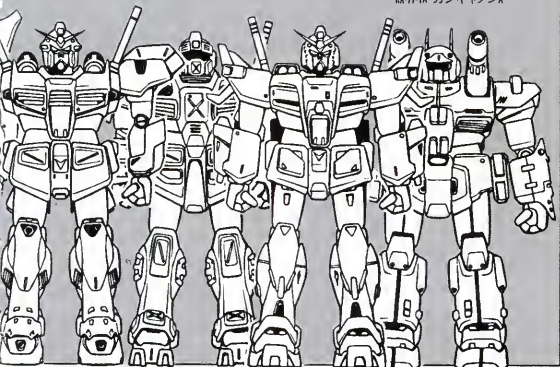
	スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	材 質	武 装
	51,800	6,000	ルナ・チタニウム	キャノン砲×2 ビームライフル 60mm Vulcan砲 三連ミサイルポッド(オプション)
	70,500	6,190	ルナ・チタニウム	60mm Vulcan砲×2 ハンドビームガン ビームサーベル×2 ハイパーバズーカ ハイパービームライフル ビームランチャー(近衛のみ)
	70,800	6,130	ルナ・チタニウム	ビームライフル ハイパーバズーカ 60mm Vulcan砲×2 ビームサーベル×2 グレネードランチャー
	53,800	6,100	チタン・セラミック複合材	ビームスプレーガン レールキャノン ビームサーベル 60mm Vulcan砲×2
	89,500	4,300	チタン・セラミック複合材	魚雷ポッド×2 マイクロミサイル×8 ビームヒック×4 ミサイルランチャー
	96,700	4,600	チタン・セラミック複合材	魚雷ポッド×2 ビームピック×2 炸裂式ハーフーガン 水中用偏向ビームライフル
	43,000	2,950	超高張力鋼	100mmマシンガン
	56,600	6,200	超高張力鋼	ビームライフル ヒートサーベル 50mm Vulcan砲×2
	43,000	3,200	チタン・セラミック複合材	拡散メカ粒子砲×2 ハンドミサイルポッド×2

RX-78-7 ガンダム7号機

RGM-79 陸戦型ジム

RX-78-4 ガンダム4号機

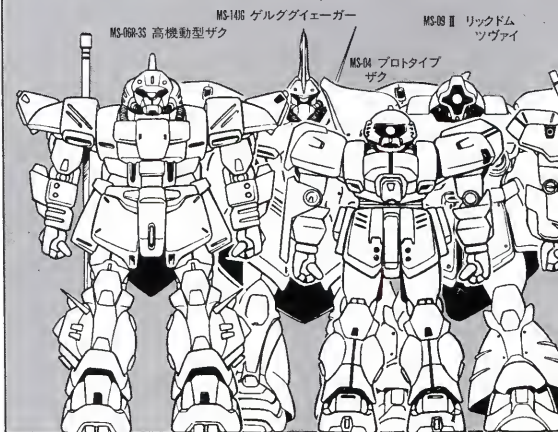
RX-77-1A ガンキャノンA



MS性能比較表

愛 称	形式番号	頭頂高	本体重量	全備重量	ジェネレータ出力 (KW)	
ガンキャノンA	RX-77-1A	17.5	51.0	72.0	1,380	
ガンダム4号機	RX-78-4	18.0	42.6	80.2	1,550	
ガンダム7号機	RX-78-7	18.3	39.2	78.7	1,670	
陸戦用GM	RGM-79	18.0	46.2	61.5	1,250	
アクアGM	RGM-79	18.0	49.5	64.3	1,280	
水中型ガンダム	RGM-79 -G1	18.3	47.7	58.5	1,330	
プロトタイプザク	MS-04	17.5	57.4	72.5	953	
高機動型ザク	MS-06R- 3S	19.0	43.5	73.7	1,390	
プロトタイプゴッグ	MSM-03 -I	17.5	58.4	79.6	2,690	

一年戦争時のM・MS



MS性能比較表

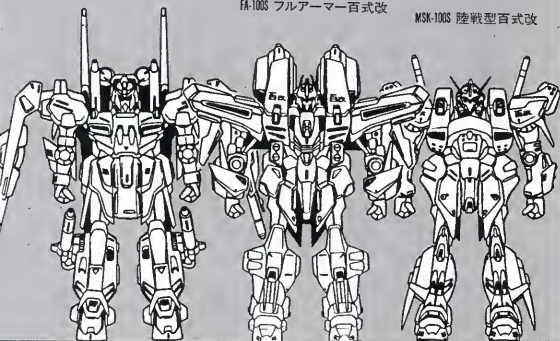
スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	材 質	武 装
78,500	11,500	チタン・セラミック複合材	クレイバスターカ ビームヒストル ハイパービームサーベル
81,100	11,300	チタン・セラミック複合材	拡散メガ粒子砲 ビーム砲 (有線サイコミュ搭載)
91,100	10,300	ガンダリウム合金	収納式ハイメガバスター 拡散メガ粒子砲×3 有線ビーム砲×2 インコムユニット×2 グレネードランチャー7基×2 ハイパービームサーベル(ビームキャノン)×2
141,200	11,500	カンダリウム合金	ハイパービームキャノン×2 ビームキャノン×2 シールドキャノン×2 グレネードランチャー×2 ビームサーベル×2 ビームライフル
11,300	12,500	ガンダリウム合金	ビームライフル ビームサーベル×2 ミサイルポッド メガ粒子砲 ビームキャノン×2 炸裂ボルト ロングメガバスター 他
70,800	10,840	ガンダリウム合金	ビームライフル 60mmバルカン×2 ビームサーベル ハンドグレネード グレネードランチャー 3連ミサイルポッド 中距離ビームキャノン

グリップス戦役時のM・MS

FA-0076 Ⅲ フルアーマーガンダム Mk-Ⅲ

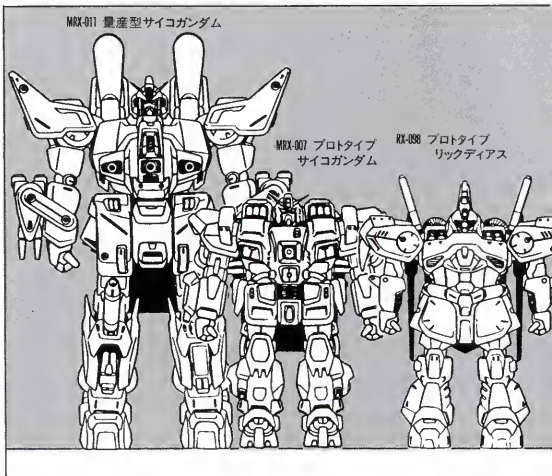
FA-100S フルアーマー百式改

MSK-100S 陸戦型百式改



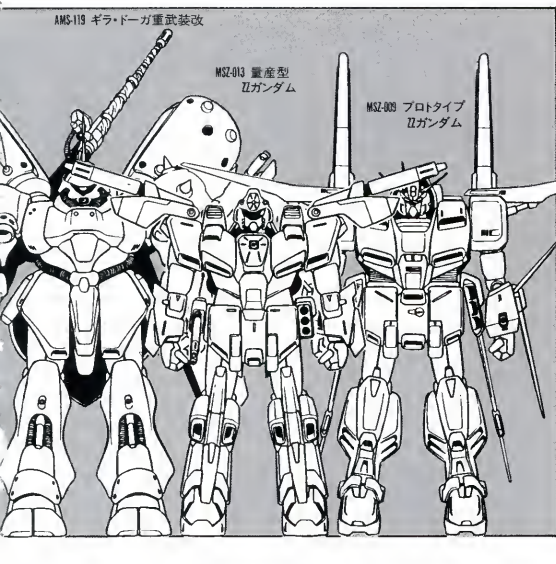
MS性能比較表

愛 称	形式番号	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (KW)	
プロトタイプ リックディアス	RX-098	19.0	40.5	59.7	1,790	
プロトタイプ サイコガンダム	MRX-007	19.3	77.4	110.9	3,700	
量産型 サイコガンダム	MRX-011	27.2	83.0	136.4	15,280	
フルアーマー ガンダムMk-III	FA-007G III	19.5	47.2	62.1	3,040	
フルアーマー 百式改	FA-100S	19.2	39.2	79.8	2,015	
陸戦用百式改	MSK-100S	19.2	39.2	63.6	2,016	



MS性能比較表

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	材 質	武 装
100,300	15,480	ガンダリウム 合金	ハイメカキャノン タブルビームライフル タ ブルキャノン
100,300	15,480	ガンダリウム 合金	ハイメガダブルキャノン ダブルビームライフ ル ダブルキャノン ハイパービームサーベル×2
97,500	11,300	カンダリウム 合金	50mmバールカン×2 簡易ハイメガキャノン 拡散 メガ粒子砲 マイクロミサイル ミサイルホッド ×2 ビームサーベル×2 ハンドグレネード×2 ビームライフル オプションウェポンホッド×2
87,000	19,400	ガンダリウム 合金	ビームライフル ビームスプレーガン ビーム サーベル バールカン×2
87,000	19,400	ガンダリウム 合金	ビームライフル ビームサーベル (ビームカノ ン) バールカン×2 フィンファンネル×2
87,000	19,400	ガンダリウム 合金	ビームライフル ビームサーベル (ビームカノ ン)×2 インコム×4 バールカン×2



MS性能比較表

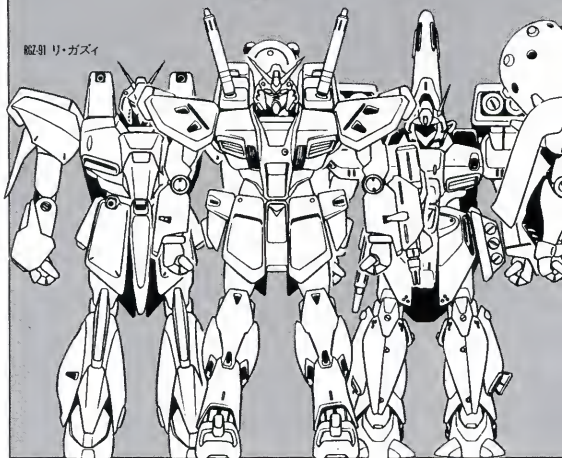
愛 称	形式番号	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (KW)	
プロトタイプ ZZガンダム	MSZ-009	19.02	29.5	60.3	3,140	
プロトタイプ ZZガンダムB型	MSZ-009B	19.02	31.7	63.0	7,200	
量産型ZZガンダム	MSZ-013	18.5	29.2	53.5	2,210	
量産型νガンダム	RX-94	21.2	25.6		2,500	
量産型νガンダム (フィンファンネル装備型)	RX-94	21.2		64.5	2,500	
量産型νガンダム (インコム装備型)	RX-94	21.2		58.0	2,500	

アクシズ戦争時のM・MS

RX-94 量産型νガンダム

RGM-89S スタークジェガン

RGZ-91 リ・ガズィ



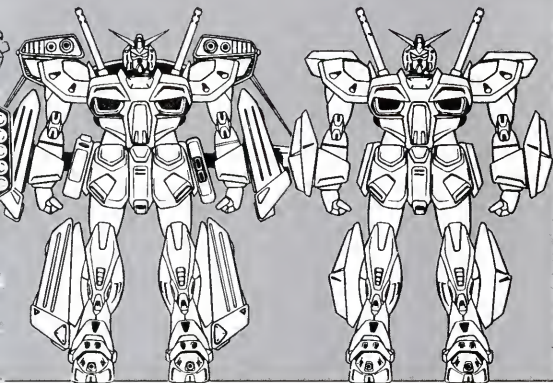
MS性能比較表

	スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	材 質	武 装
	74,760		カンタリウム セラミック複合材	バルカン砲×2 ビームサーベル×2
	184,800		ガンダリウム セラミック複合材	バルカン砲×2 ビームサーベル×2 マシンキャノン ビームキャノン メ ガビームバズーカ
	140,800		ガンダリウム セラミック複合材	バルカン砲×2 ビームサーベル×2 ビームライフル 4連グレネードドラッ ク×2 5連ロケット弾ハック×2 メ ガガトリングガン MSクラッカー
	74,760		ガンダリウム セラミック複合材	バルカン砲×2 メガビームキャノン ×2 2連ミサイルホッド×2 4連ビ ームキャノン×2 クルーピングミサ イル×2
	74,760		ガンダリウム セラミック複合材	—

F(フォーミュラ)MS

F-90A ガンダムF-90アサルト

F-90 ガンダムF-90

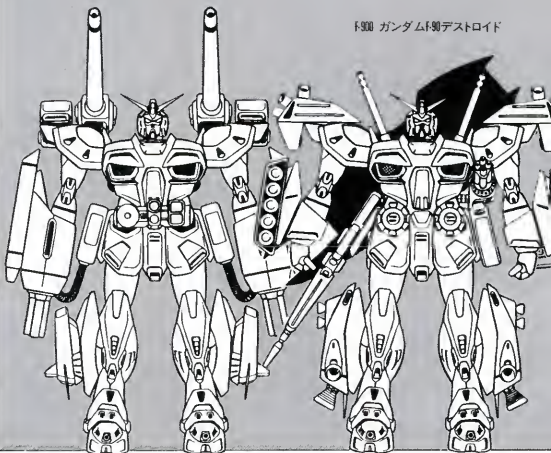


MS性能比較表

愛 称	形式番号	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (KW)	
ガンダムF90	F90	14.8	7.5	17.8	3,160	
ガンダムF90A	F90A	14.8	9.8	80.3	3,160	
ガンダムF90D	F90D	14.8	8.9	21.3	3,160	
ガンダムF90S	F90S	14.8	11.3	25.2	3,160	
ガンダムF90E	F90E	14.8	8.2	20.8	3,160	

F-90S ガンダムF90サポート

F-90D ガンダムF90デストロイド



MMS

〔MS用語辞典②〕

コロニー公社／ファンネル

コロニー公社〔colony public corporation〕

宇宙移民計画が開始された当初から、設立された公共企業体。コロニー施設の管理運営を行っている。

サナリイ〔S・N・R・I〕

サナリイはサイド4に本拠をおく軍の研究機関である。

前身はサイドーを手掛けた宇宙島建設企業連合体まで遡る古参企業であったが、軍に買収され戦略兵器の研究所として発展した。コロニー公社と関係が深いため今まで内戦状況に中立

を貫き機動兵器に手を染めることはなかった。しかし

ここに至ってMSからのスピンオフ技術が無視できなくなつたこと、平和が続く直接戦闘に巻き込まれる恐れが減つたことにより次期主力MS、Fシリーズの開発に乗り出した。

ジオニック社〔Zionic〕

ジオン公国最大手のMSメーカーであり、MSという兵器自体を世界で最初に開発したメーカー。

耐ビームコーティング〔beam resist coating〕

ビームが直射することによって気化し、威力を拡散させる表面処理のこと。MSの装甲などに用いられる。

ビームサーベル〔beam sabre〕

エネルギーCAPを応用したビーム兵器の一種。ただしビームライフルとは異なり、メガ粒子ではなく高エネルギー状態のミノフスキー粒子を放出させ目標物を切断する。

ファンネル〔funnel〕

ビットの発展したサイコミュ兵器。メイン・スラストとバーニアを持ち、ビーム砲を搭載している。エルメスのビットは熱核反応炉搭載型で、全長8・4mもあったが、ファンネルではエネルギーCAPの性能が向上したため、熱核反応炉クラスの大電力は不要となり

小型化が可能になった。そのため、ファンネルでは被発見率、被弾率が大幅に低下したが、その分滞空時間は短く、ファンネルはローテーションで母機のファンネル・ホールにおいてエネルギーCAPとプロペラントの再チャージが行われる。また、小型化が進められる一方で、 α アジールのファンネルでは、エルメスのビット並に大型で20・4MWものビーム砲と大出力スラストを搭載したり、レガンダムフィンファンネルはビーム砲のIフィールド発生器をバリアーにも流用できるなど、新たな機能を追加したファンネルの研究も進められている。



ガンダム オフィシャル レポート

GUNDAM Official Report

●宇宙世紀とはどんな時代なのか。MSを始めとして、新たな空間や技術を手に入れた人類が、なぜ、いまだに闘い続けているのか。その背景を解説する。

Illustration by Kazumi Fujita

ガンダム・オフィシャル・レポート、1

歴史

History

U.C.0001~0120

ユニバーサルセンチュリー

人類の歴史が、宇宙移民開始を契機として、U.C.(宇宙世紀)に移行した後、人類の過半数が、月面都市やスペース・コロニーに居住するようになった。これには、地球の生態系の保護、さらには、地球そのものの熱死を防ぐという目的もあり、人類はことごとく宇宙に居住すべきだという基本理念があった。ところが、移民計画が当初の目標数を達成すると共に、コロニーの新造は中断され、地球からの移民も急速に減少した。その多くは連邦政府の関係者であり、合法的に地球に住むものは、上流階級層であるという風潮が生まれた。本来、地球に残れるものは、自然の回復を促進し、状況を観察する科学者と、

それに必要な人員のみであるはずだった。宇宙移民者からみれば、連邦の行為は背任以外のなにものでもなかった。宇宙世紀は、常にこの問題を根底に、時を刻んで行くことになる。

U.C.に移行して半世紀ほどが経過したころ、地球を聖地とするエレズムと、コロニー

の行政単位であるサイドの国家主義が融合したコントリズムという思想が、ジオン・ズム・ダイクンによって提唱された。後に、サイド3はジオンの死とともに、ザビ家による独裁制に移行。ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に対して独立戦争を仕掛けることになる。(↓大図鑑①参照)



History

年・月・日	事 柄
1999	地球連邦政府樹立。人類宇宙移民計画発表。
2005	太陽発電衛星第1号機の打ち上げに成功。
2009	地球連邦軍設立。
2026	木星エネルギー船団、月軌道上より発進。
2045	第1号コロニーの建造が開始される。
U・C0001	宇宙移民開始をもって宇宙世紀に移行。地球総人口、90億突破。
0027	初の月面恒久都市、フォンブラウン市が完成。
0040	総人口の40%(約50億人)が、宇宙への移民を完了。
0045	小惑星ユノー(後のルナⅡ)、月軌道に定着。サイド3にミノフスキー物理学会設立。
0050	総人口は110億に達し、そのうち90億が宇宙に移民。
0058	ジオン・ズム・ダイクン、サイド3独立宣言。ジオン共和国樹立。国防隊発足。
0059	連邦政府、サイド3に対して経済圧力を加える。
0060	連邦軍、60年代軍備増強計画発動(特に宇宙艦隊の統制に力を注ぐ)。
0062	ジオン国防隊、国軍へ昇格。
0068	ジオン・ズム・ダイクン死亡(暗殺の可能性あり)。次期首相はデギン・ソド・ザビ。
0069・08・15	ジオン公国宣言。デギン・ソド・ザビ、公王に。ザビ家独裁体制のため、ジオン派は追放。ミノフスキー粒子の存在が実証される。
0070・03	公国軍、ミノフスキー粒子散布による電波妨害などの特殊効果へミノフスキー効果へ確認実験に成功。
0070・05	公国軍、メガ粒子砲を完成。
0071	ジオン公国軍兵器開発局、ミノフスキー粒子散布下における新型兵器の開発に着手。ミノフスキー物理学応用による小型核融合炉の1号機完成。
0072	ジオン公国、アステロイドベルトに小惑星基地アクシズを建設。
0073	公国軍、新型兵器1号機完成。MS-01の形式番号と、モビルスーツ(MS)という呼称を与えられる。
0074・02	公国軍、ミノフスキー型核融合炉搭載のMS-05ザクⅠの試作型ロールアウト。
0075・5	公国軍、MS-05ザクⅠの実戦型ロールアウト。
7	公国軍、ムサイ級軽巡洋艦の一番艦就役。
0076	公国軍、地球侵攻作戦を前提とした局地戦用MSの開発に着手。
0078・1	公国軍、ザクの強化型、MS-06ザクⅡの量産を開始する。
10	ジオン公国、国家総動員令発令。
0079・1・3	一年戦争勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対し独立戦争をしかける。宣戦布告と同時に、サイド1、2、4へ奇襲攻撃。BC兵器と熱核兵器の無差別投入、さらにコロニーを地表に落下させ、大規模な気象変動をもたらす。(1・3〜1・10までの戦闘を一週間戦争と呼ぶ。この期間の戦闘で総人口の5割に相当する55億人が死亡)
1・15	ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊の敗北に終わる。公国軍は艦隊司令のレビル將軍を捕虜とする。
1・17	サイド6中立宣言。
1・31	南極条約締結。
2・7	公国軍、地球侵攻作戦開始。北米・中米、東南アジア、ヨーロッパの各都市に衛星軌道上から直接降下部隊を送り込む。(2〜3月の期間に公国軍は前大陸の3分の2を勢力下に置く。だが、両軍ともに戦力衰退。戦局は膠着状態に陥る)
3	公国軍、占領した地域の施設を使い戦力を増強。
4	連邦軍、新型MSと専用強襲母艦の開発・建造を目的としたV作戦、失われた宇宙艦艇の量産を目的としたピンソン計画を同時に発動させる。
6	公国軍、宇宙要塞ア・バオア・クー、ソロモン、月面基地グラナダを結んだ本土防衛ライン完成。フラナガン機関の設立。
7	連邦軍、ビーム兵器の小型化に成功。連邦軍の新造艦ホワイトベース(WB)進宙。RX-78ガンダム試作第1号機、サイド7内の開発工場でロールアウト。
8	連邦軍製試作型MS、サイド7で最終テスト開始。北米オーガスタ連邦軍基地において、RX-78-NT-1の開発が開始。
9・18	公国軍の特務部隊、サイド7を強襲。コロニー内部で史上初のMS同士の戦闘が行なわれる。WB、破壊を免れたMSを収容し南米のジャブロー基地に向けて出航。
9・20	ニューヨーク市において地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビ、戦死。
9・22	ギレン・ザビ、全地球規模の大演説を展開。

一年戦争

UC0070年代、核融合技術から派生したミノフスキー物理学の応用によって核融合炉の小型化が実現。0079年にジオン公国を戦争に踏み切らせることになったのは、このミノフスキー物理学の応用で可能になったMS（モビルスーツ）の存在である。その後、この技術は連邦にももたらされ、後に一年戦争と呼ばれるこの戦争は、0080年に連邦の勝利に終わり、ジオン公国は共和制へと移行する。まがりなりにも共和国として自治権を認めたのは、ジオンの別動隊が温存されていたため、それに対する牽制の意味もあった。

公国軍の残存部隊は、アステロイドベルト空域へ逃げ延

び、地球及び周辺に残った勢力はゲリラ化した。公国軍残党、ゲリラは土着の運動などと結び付き、間断なく活動を続けていた。そして、連邦軍に対して行なわれる破壊工作は、徐々にエスカレートしていき、この事態に危機感を持った連邦政府は、0083年に、公国軍残党狩りを主任務とするティターンズの結成を決定した。公国軍残党は、反地球連邦運動と巧みに連係していたが、武力行使を望まない運動もあり、ジオン狩りによって、過激な実力行使派から離反する組織もあった。さらに、連邦内部にも、エリートを自称するティターンズの台頭をはじめ、連邦組織の腐敗を憂慮する勢力があった。これらが、月面都市やコロニーの企業体など、宇宙移民者寄りの姿勢

をもつ実力者達と手を結んで、宇宙生活者の欲求を代弁するエウーゴが結成された。反地球連邦運動は、0085年のティターンズによる30パンチ事件が引き金となって、一挙に活発化する。0087年の試作MS強奪によって、ティターンズとエウーゴの対立は決定的になり、その後、軍事衝突が頻発することになる。同年5月には、連邦軍基地のジャブローがエウーゴによって襲撃され、対するティターンズの対抗手段も過激になり、多くの一般市民が巻き込まれた。さらに、10月には公国軍残党のアクシズが地球圏に帰還し、戦況は、さらに混迷する。

（↓大図鑑②参照）



年・月・日	事柄
0079・10	連邦軍の各工場で量産体制が始まる。公国軍、連邦軍のMSに対抗するため新型機を次々に実戦配備。 MS用ビームライフル、公国軍側でも実用化に成功。 フラナガン機関、サイココミュニケーションシステムの試作型を開発。
11・7	連邦軍、オデッサ作戦始動。3日間の戦いの末、連邦軍の勝利に終わる。 (連邦軍、11月後半から量産型MS、RGM-79ジムの実戦配備を開始する)
11・30	公国軍、ジャブローを攻撃するが失敗に終わる。
12・15	連邦軍、アフリカ、北米で公国軍掃討戦を展開。
12・21	公国軍、連邦軍北極基地襲撃。
12・27	連邦軍、ソロモン攻略作戦開始。公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令官ドズル・ザビ中将戦死。
12・30	連邦軍、星1号作戦発動。デギン公王、自国のソーラ・レイ・システムによって死亡。連邦軍はレベリ艦隊を失う。
12・31	ア・バオア・クー攻防戦。要塞内において、ギレン・ザビ総帥、キシリア・ザビ少将とともに戦死。連邦軍の勝利に終わる。
0080・01・01	月グラナダにて地球連邦とジオン共和国の間に終戦協定が結ばれる。
06	アフリカ戦線の旧公国軍、武装解除。
0081・03・28	旧公国軍の残党、小惑星基地アクシズに到着。
05・05	ドズル・ザビ夫人(ゼナ)、アクシズで病死。
0081・10・13	連邦軍再建計画が連邦議会で可決。
0082・04	連邦軍、ニュータイプ研究機関の設立を決定。
0083・08・09	アクシズの指導者、マハラジャ・カーン死亡。
08・11	ハマーン・カーン(当時14歳)、ミネバ・ザビの摂政役に就任。
09	アクシズ、新合金“ガンダリウム・ガンマ”の開発に成功。
10	オーストラリアのMS実験基地。旧ジオン残党デラズ軍に奇襲攻撃を受ける。
12・04	ジャミトフ・ハイマン准将の提唱によるティターンズ結成。旧公国軍の残党狩り、活発化。
0084・06・17	連邦議会、地球圏の現状維持を発表。
09・21	シャア・アズナブル、地球圏に帰還。非合法で連邦軍の軍籍を得る。
0085・07・31	30パンチ事件。ティターンズがサイド2・30パンチに毒ガスを注入し住民を虐殺。A.U.G.E.運動活発化。
09・08	グリプス2、サイド7に建設される。
0086・02・06	アクシズ、地球圏に向けて発進。
0087・03・02	エウーゴ、グリプス1より試作MS3機を強奪。
04・29	最後の木星エネルギー輸送船ジュビトリス地球圏に帰還。
05・11	エウーゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を攻撃。
06・29	ティターンズ、ホンコン・シティを襲撃。
08・10	ティターンズ、アポロ作戦発動。フォン・ブラウン市を襲撃。
08・17	エウーゴの指導者、ブレックス・フォーラ准将暗殺。
10・12	アクシズ、地球圏に帰還。
11・16	エウーゴ、タカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの悪を訴える。
12・07	ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーによってサイド2・18パンチを破壊。
12・14	ティターンズ、サイド2・21パンチを毒ガス攻撃。住民は全員死亡。
0088・01・18	アクシズ、ゼダンの門の旧ア・バオア・クーを破壊。
02・02	エウーゴ、メールシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリプス2を占拠。
02・22	エウーゴ、アクシズ、ティターンズの三つどもえの艦隊戦。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エウーゴも戦力の大半を失う。シャア・アズナブル行方不明。
02・24	惑星ベズンにおいて、ティターンズ教導部隊の一部青年将校が“ニューディサイズ”を名乗り反乱を起こす。
02・29	ネオ・ジオン、各サイドに制圧部隊を送る。
03・23	連邦軍、ニューディサイズ討伐隊前衛艦隊α任務部隊を編成。
03・28	ベズン、占領部隊の核爆弾により爆発。ソロモン駐留のエイノー艦隊、反乱軍の討伐に発進するが、連邦軍の指揮を離れ、装備と共にニューディサイズと合流。
03・29	エイノー艦隊、月裏面のエアーズ市に降下。
04・01	エアーズ市の上空で攻防戦が展開される。FAZZ部隊全滅。ニューディサイズ、マス・ドライバー基地を占拠。
04・02	エアーズ市武装解除。ニューディサイズ、マス・キャッチャーを利用し脱出。 ネオ・ジオン、ジオン残党のトワニング隊と合流。

宇宙世紀百年代

エウーゴの指導者ブレックス・フォーラ准将が暗殺され、連邦議会でティターンズの非を訴えるシアアの演説が支持を得たことによって、連邦内での力関係は逆転した。劣勢に立たされたティターンズは、アクシズと手を組むが、ジュピトリスなども含め、それぞれの勢力が混戦状況に陥った中、指導者のジャミトフ・ハイマン大將が殺されたことで、ティターンズは実体を失い、一部の急進派を除き、多くは連邦軍本隊に復帰した。その後、戦況はアクシズ対エウーゴという図式に移行するが、ティターンズとの内紛で消耗していた連邦軍は、各コロニーに送られたアクシズの制圧部隊を排除することもできな

かった。各コロニーを押さえたアクシズはネオ・ジオンを名乗り、同年の6月には先遣部隊を地球に送り、8月には本隊が地球に降下した。さらに、連邦本部のダカールを制圧し、公国軍やティターンズの残党を配下に治めた。その後ネオ・ジオンは、連邦政府に様々な要求を突き付け、サイド3を譲渡させた。一応の目的を達成したネオ・ジオンは地球から撤退するが、組織内で分裂が起こり、ネオ・ジオンは自滅してしまつたのだ。

(↓大図鑑②参照)

一般に「シアアの反乱」と呼ばれる第二次ネオ・ジオン抗争は、ザビ家の再興を目的としたハマーン戦争の時とは異なり、ジオン・ズム・ダイクンの理想を元にした形で活動が進められた。それは、人は

地球に住むべきではないという原則を実現するため、核の冬を起こすことによって、地球そのものを居住不能にするという過激なものだった。この闘いは、一応は連邦の勝利という形で決着したが、反地球連邦運動は、その本質を受け継ぐ形で、宇宙移民者の間に根付いていた。連邦政府は、

大規模な戦闘に発展する以前に、これらの芽を摘み取ろうとしたが、実質的には、規制の強化しか能のない、無能ぶりを発揮するにとどまった。その規制は、人道を無視したもののさえあったが、小規模なゲリラ活動を除いて、一応は平和な時代が続くことになる。

(↓大図鑑③参照)



History

年・月・日	事柄
04・04	ニューディサイズ、低軌道中継ステーション、ペンを制圧。
04・05	α特務部隊、任務終了。 [ティターンズの反乱(グリブス戦争)]終結。
06・06	ネオ・ジオン、先遣部隊を地球に降下させる。
08・01	ネオ・ジオンの本隊、地球侵攻。
08・29	ネオ・ジオン、ダカールを占拠。旧公国軍、ティターンズ残党を配下に治める。
10・31	ネオ・ジオン、ダブリンにコロニーを落とす。
11・14	地球連邦政府、ネオ・ジオンにサイド3を譲渡。ネオ・ジオンの戦力、地球より撤退する。
12・25	ネオ・ジオン内でグレミー軍が反旗を翻す。
0089・01・16	アクシズ、コア3に激突。
・17	エウーゴ、ネオ・ジオンを制圧。ハマーン・カーン戦死。ミネバ・ザビ行方不明。[ハマーン戦争(第1次ネオ・ジオン抗争)]終結。
03・15	木星エネルギー輸送再開。ジュビトリスⅡ発進。
05・01	連邦軍、大物質アステロイドの管理体系を再編成。
08・25	連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対し経済制裁等の引き締め強化。
0090・01～	エグム、NSP等、反地球連邦組織の活動活発化。
02	難民収容施設として、スウィート・ウォーターを改造。
03	連邦軍、外郭新興部隊ロンド・ベル隊設立。
07・15	NSPのカラード隊、サイド6、再建中のテキサスコロニーを襲撃。連邦軍のアラハス隊、モノトーン社のスタッフと合流。
10・15	サイド2でアラハス隊とカラード隊、戦闘。
11・23	民間会社モノトーンのスタッフが連邦軍のテストパイロットに抜擢。
12・15	NSP総艦隊、アラハスと合流。ネオ・ジオンの過激派偽装陽動部隊と交戦。
0091・02・06	NSP解散宣言。
02・27	過激派偽装陽動部隊、木星へ。
0092・08～	連邦軍、本部をチベットのラサへ移動。
12・13	ネオ・ジオン、地球連邦軍に対し攻撃を示唆。
12・22	シャアを総帥とする艦艇、スウィート・ウォーターの占拠を宣言。
12・25	連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。
0093・02・27	ネオ・ジオン総帥のシャア、インタビュー番組内で事実上の宣戦布告。
03・03	ネオ・ジオン艦隊スウィート・ウォーターを発進。
03・04	5thルナ、連邦軍本部所在地チベットのラサに激突。
03・06	ネオ・ジオン軍と連邦軍、サイド6、ロンデニオンにおいて、極秘裡に和平交渉。
03・12	ネオ・ジオン艦隊、投降を偽装しアクシズを奪回。地球へ降下させるが失敗。 [アクシズ戦争、シャアの反乱(第2次ネオ・ジオン抗争)]終結。
0100～	連邦軍、ジオン共和国の自治権放棄をもって、戦乱の消滅を宣言。
0103～	反地球連邦組織「マフティー」軌道上の監視用人工衛星を破壊。
0104・02・28	地球上の連邦軍増強。地球上のマン・ハンター組織や、不法居住者摘発を強化。
0105・04・09	ミノフスキー・クラフト搭載の新型MSペーネロペー月面工場からオーストラリアに移送。
04・19	「マフティー」を標榜する活動家による、政府高官専用シャトルハウゼン乗っ取り未遂事件。
04・20	「マフティー」オーストラリアのタサダイホテル襲撃。Ξ(クスイー)ガンダム地球へ移送。
04・21	Ξガンダムとペーネロペー、インドネシアのハルマヘラ島沖で交戦。
04・26	「マフティー」オーストラリアのアデレートで行なわれる連邦の中央閣僚会議粉碎を告知。「連邦政府調査権の修正法案」破棄をもとめて会議場を襲撃。しかし、会場周辺に設置されたバリアーによって、Ξガンダムは閉座。一連の反地球連邦運動の首謀者、マフティー・ナビユ・エリオン逮捕。法案は可決。
04・27	第十三独立部隊、アデレートに到着。
05・01	反地球連邦組織のリーダー、マフティー処刑。
0105・06～	連邦軍、反地球連邦組織に対する弾圧強化。思想統制も行なわれる。マフティー運動などアングラ化。反地球連邦運動、表面的には鎮静化。
0106～	新規のコロニー建設再開。
0111・10	連邦軍、次期主力MS開発を決定。サナリィ社のF(フォーミュラ)シリーズが、アナハイム・エレクトロニクス社を破り、制式採用となる。
0120・10・25	ジュビトリス級輸送艦「コバヤシ丸」、謎のMS部隊の襲撃を受ける。
0120・10・28	サイド4空域でテスト飛行中のF-90の試作一機が謎のMS部隊に強奪される。

ガンダム・オフィシャル・レポート、2

機動兵器

Mobile Weapon

U.C.0111~0120

実験用汎用試作型MS

ザクの登場によって、それまでの戦略兵器の概念を覆したMSは、その後、順調に定着、発展し、技術的にも確立されたものとなっていた。

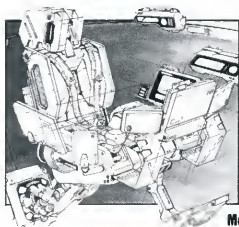
しかし、優秀な兵器であったために、さらなる高性能化が求められ、様々な機能を次々と組み込んでいった結果、機体は巨大になり、新機種が採用されることに、機体の稼働に要する施設や人員の拡充が必要となった。また、機構も複雑になり、メインテナンスや稼働率に支障をきたすことも頻繁になった。運用コストの高騰は、無視できないものとなっていたのだ。ここに至り、連邦軍内でも、MSそのものを見直す機運が高まった。

UC0011年、連邦議会

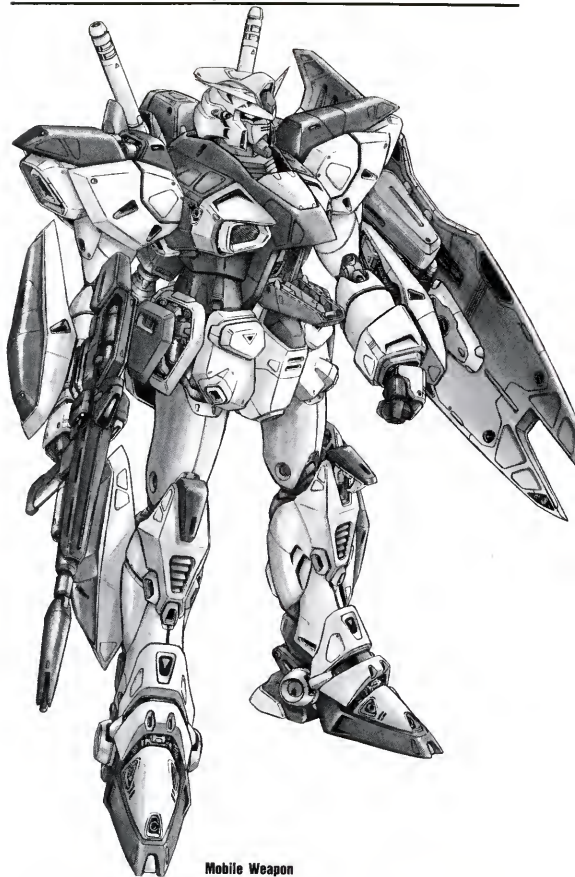
は、性能を落とすことなく調達容易な、小型MSの開発を決定した。MSの原点である汎用人型兵器への回帰が目標となった。その要求に応えた機体がF-90である。

この機体は、装備を自在に選択することによって、全く仕様の異なるMSとして運用することができると。素体として高性能なMSに追加装備をほどこすフルアーマーや、Gアーマー、Gディフェンサーなどのバックパックシステムはこれまでも多数存在したが、多岐に渡るシステムのミッシェンバックを系統的に考慮したのは、今回が初めてである。TMSのように、運用目的を瞬時に変更することはできないが、メインテナンスや稼働率を考えれば、要求を十分に満たしていた。さら

に、それらの装備は規格が統一されており、機体の再調整は、一切不用だった。これらの装備を統括、運用するため、かなり高度なコンピュータを搭載する必要があったが、シナプス・プロセス数百万ものホロ・キューブ系大処理能力コンピュータを採用することで、機体、及びすべてのミッシェンバックを管制することが可能となった。



Mobile Weapon



Mobile Weapon

機動兵器

F
90

F-90は、基本的に格闘戦仕様のMSで、標準武装としてビームライフル、ビームサーベル、シールドを装備している。機体そのものに内装されている固定武装は、自衛用のバルカン砲が2門のみである。ただし、必要に応じて様々な武装が装備できるように、機体各所にハード・ポイントが11ヶ所設置されている。さらに、それぞれのラッチは1/0ポートにもなっており、装備を変えることのデータプログラム修正は不要で、装備



の混成も可能である。



F
90
A

Aタイプ（長距離優攻仕様）は、ミノフスキークラフト方式の機動ユニットと大量のプロペラントを装備し、遠距離の目標に侵入し、拠点に打撃を加える。飛行状態を安定させるため両肩を固定している



が、姿勢制御は、下肢を使ったAMBACで行なう。また、大気圏内では、主翼で姿勢制御を行なう。浮力そのものは、UC00105年前後に、MSサイズでの実用が可能になったミノフスキークラフト・ユニットで得ているため、翼面積は小さくて済む。

Mobile Weapon

機動兵器

F 90 D

Aタイプは、目標拠点のピンポイント攻撃を主目的としているため、火力そのものはあまり大きくないが、このDタイプ（接近戦仕様）は敵主力に対する面制圧を目的としているため、グレネード、M

Sクラッカー、ロケット弾、重機関銃など、大量の近距離兵器を装備している。戦略的には、主要目的を制圧した後、格闘戦に入り、敵を掃討する。このとき、戦闘に支障がなければ、ミッシェンバックを排除して、機動性を上げることもあるだろう。



F 90 S

Sタイプ（長距離支援仕様）は、前記のA、Dタイプの戦闘行動を支援するために設定されている。長距離メガビーム砲、レールキャノン、汎用誘導ミサイル、目標認識式自己誘導クルーズミサイルなど

の長距離兵器と、長距離用の複合照準器を装備している。なお射撃時には、射撃の反動を吸収し、なおかつ照準の精度を向上させるため、両肩を固定させ、機体を支持ジャッキによって固定する。それぞれの装備は、MSによる野戦交換も可能である。



Mobile Weapon

MMS

〔MS用語辞典③〕

フォーミュラ・レールキャノン

フォーミュラ [formula]

軍の「MSの原点である汎用人型兵器に立ち返る」という提言をもとに、サナリイが開発に着手した新しい形式のMSシリーズ。時代の主流になりつつあった大型可変MSを見直し、思い切って内蔵火器等の基本動作に必要な構造物を一切排除、必要最小限の素体としてMSを設計した。これによって極限までに小型軽量化され、MS本来の高機動性をもつ機体となった。さらに、目的に応じて必要

な装備を機体に追加外装するミッドコンパック方式を

採用、デッドウエイトとなる装備をもたないために本来の機動性を維持できるうえ、新型兵装を追加装備の再設計のみで簡単に採用できるようになった。過去にはGディフェンサー等同様の例があったが、Fシリーズでは機体と追加装備のトータルシステムで同時開発されており、極めて効率の良いものになっている。
マイクロハニカム構造 [micro honeycomb]

金属中に発生させたミノフスキー立方格子にそって、異種結晶化結合を成長させた構造。地球に本社をもつヤシマ重工が開発した。

ミノフスキーラフト [Minov-sky craft]

ミノフスキー物理学の技術応用の一つ。ミノフスキ

ー粒子は正負が交互に格子状に整列する。これは粒子間に働く電気力とT力によって起こるこれまでの素粒子にない性質で、これに作用するフィールドを発生させて機体を浮遊させようとするシステムである。ミノフスキークラフトは暫定的な反重力システムと称されるが、重力加速は通常の物体と同様にかかっている。それをミノフスキー粒子の立方格子によって落下を支

えているわけで、重力をコントロールしているわけでも慣性をコントロールしているわけでもない。一年戦争時のニュータイプ・シッブと呼ばれたベガサス級一番艦ホワイトベースが、ミノフスキークラフトを装備した初めての実戦戦艦であった。現在ではMAクラスの機体でも装備が可能である。

レールキャノン [rail canon]

火薬や炸薬などの物理的な圧力によらず、電磁誘導によって実体弾を打ち出す大砲のこと。原理的にマズドライバーと同一で、機構に要する体積などが大きくなる反面、打ち出す砲弾等の種類を選ばないので汎用性に秀でている。また、燃焼が伴わないのでメンテナンスも容易である。



モビルスーツ

MS設定資料集

M.S. Design collection

●「大河原邦男MSコレクション」(M・MS)
及び「機動戦士ガンダムF-90」に登場する
MSのデザイン画を、解説付きで紹介する。
なお、それぞれに登場するMSは、これです
べてではありません。

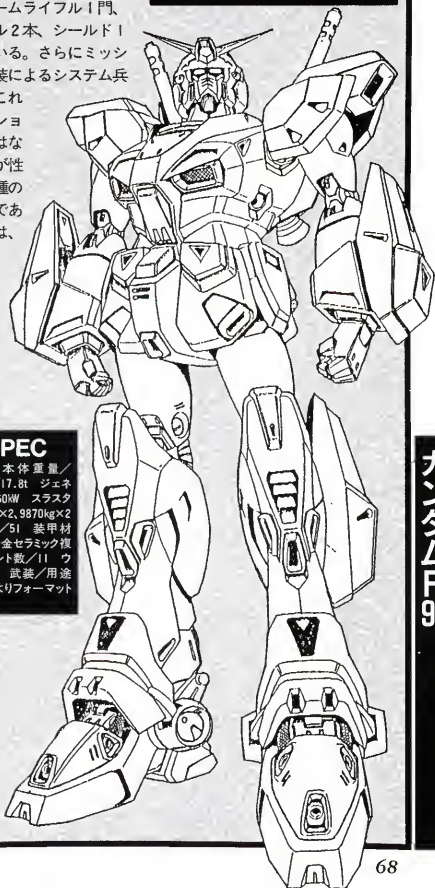
Illustration by Rei Nakahara

ガンダムF90

F90は極めて機動性に富む『格闘戦仕様』のMSである。標準装備として、ビームライフル1門、ビームサーベル2本、シールド1基を装備している。さらにミッシェンバック換装によるシステム兵器でもある。これは単なるオプションシステムではなく、同一機体が性格の異なる別種のMSになるのである。その種類は、長距離進攻仕様、接近戦仕様、長距離支援仕様、強行偵察仕様の4種類がある。

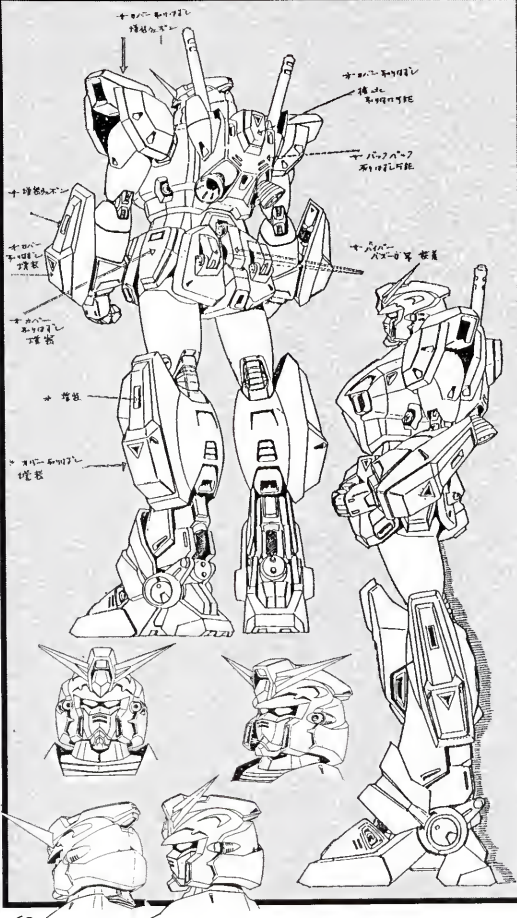
F90 SPEC

頭頂高/14.8M 本体重量/7.5t 全備重量/17.8t ジェネレーター出力/3160KW スラスタ推力/27510kg×2、9870kg×2
 アポジモーター数/51 装甲材質/ガンダリウム合金セラミック複合材 ハードポイント数/11 ウエポンラック数/1 武装/用途別、各運用仕様によりフォーマット化



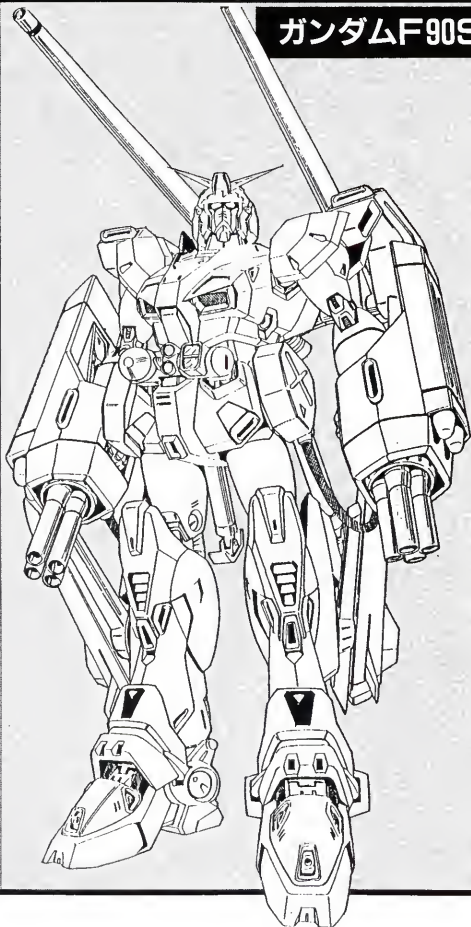
ガンダムF90

ガンダムF90



ガンダムF90S

ガンダムF90S



F90S SPEC

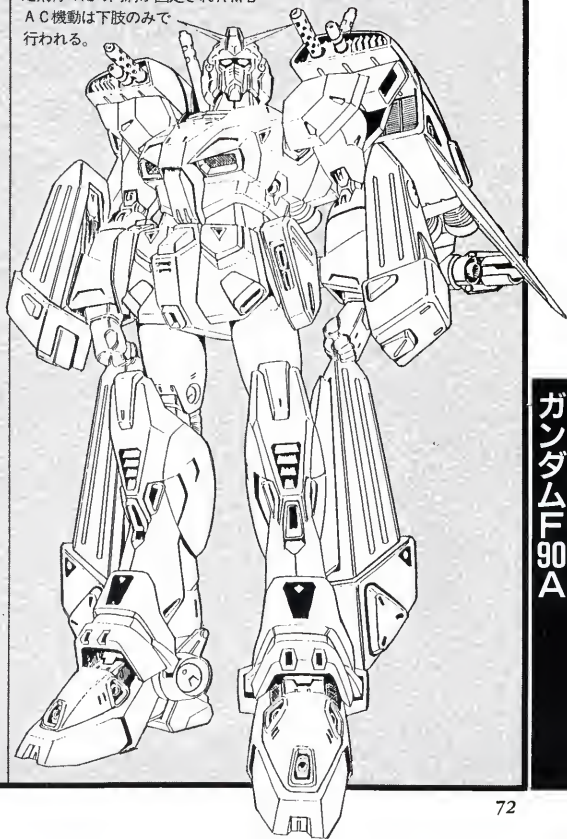
頭頂高／14.8M 本体重量／11.3t 全備重量／25.2t ジェネレーター出力／3160kW スラスタ／74760kg アボジモーター数／62 武装／バルカン砲×2、メガビームキャノン×2、2連ミサイルポッド×2、4連ビームキャノン×2、クルージングミサイル×2

前線で作戦行動を行う友軍を遠距離から支援するタイプ。長射程メガビーム砲、レールキャノン、汎用誘導ミサイル、目標の形態情報を認識し自己誘導するクルーズミサイル等の長距離兵器と長距離用複合照準器をもつ。

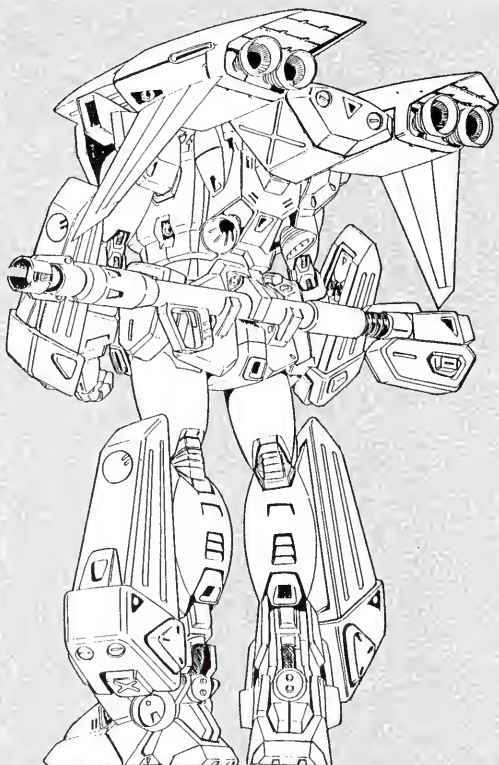
ガンダムF90S

ガンダムF90A

敵陣深く侵攻し重要拠点にピンポイント攻撃を加えるタイプ。ミノフスキークラフト方式の機動ユニットと大量の推進剤を装備している。安定飛行のため両肩が固定されAMBAC機動は下肢のみで行われる。



ガンダムF90A



ガンダムF90A

F90A SPEC

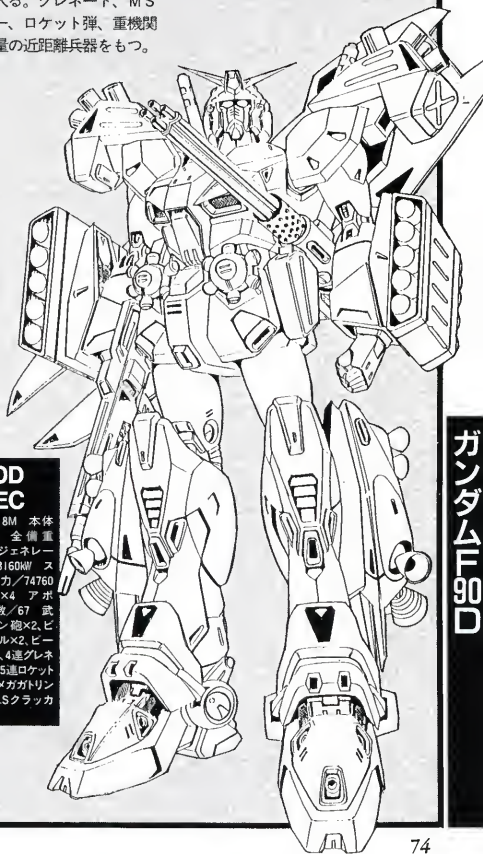
頭頂高/14.8M 本体重量/9.8t 全備重量/80.3t ジェネレーター出力/3160kW スラスタ
 ー推力/74760kg+27510kg×4 アポジモーター数/61 武装/バルカン砲×2、ビームサーベ
 ル×2、マシンキャノン×2、ビームキャノン×2、メガビームバズーカ×1

ガンダムF90D

敵主力に対する面制圧を目的とするタイプ。通常は目標を制圧後、格闘戦に入る。グレネード、MSクラッカー、ロケット弾、重機関砲など大量の近距離兵器をもつ。

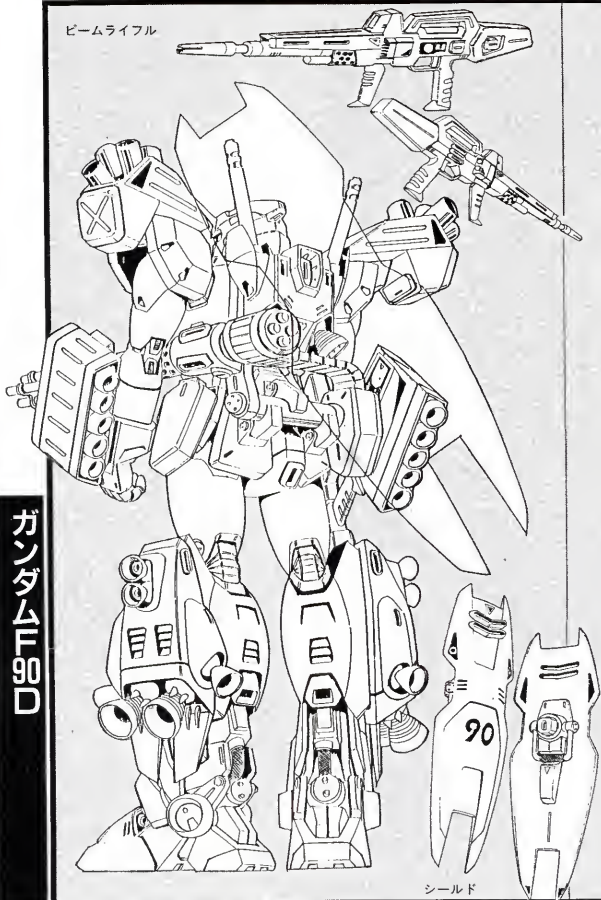
F90D
SPEC

頭頂高/14.8M 本体重量/8.9t 全備重量/21.3t ジェネレーター出力/3160kW スラスター推力/74760kg+16510kg×4 アボジモーター数/67 武装/バルカン砲×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1、4連グレネードラック×2、5連ロケット弾バック×2、メガガトリングガン×1、M.Sクラッカー×2



ガンダムF90D

ビームライフル

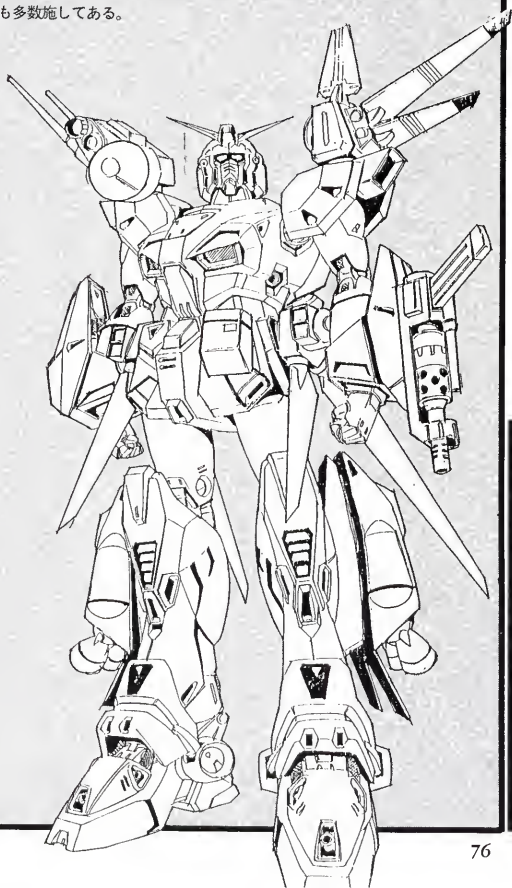


ガンダムF90

シールド

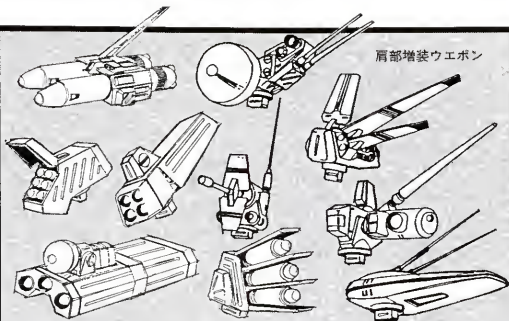
友軍の主力部隊より先行して、敵軍の情報集取を行うタイプ。各種レーダー、センサーを多数装備し武装も多数施してある。

ガンダムF90E

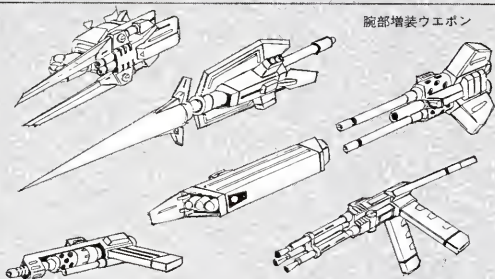


ガンダムF90E

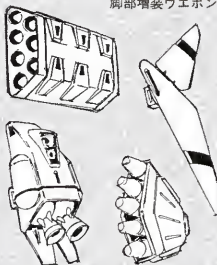
肩部増装ウエポン



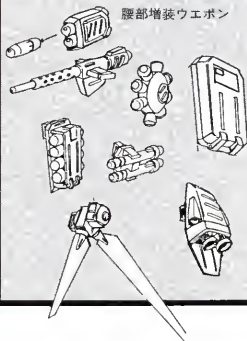
腕部増装ウエポン



脚部増装ウエポン



腰部増装ウエポン



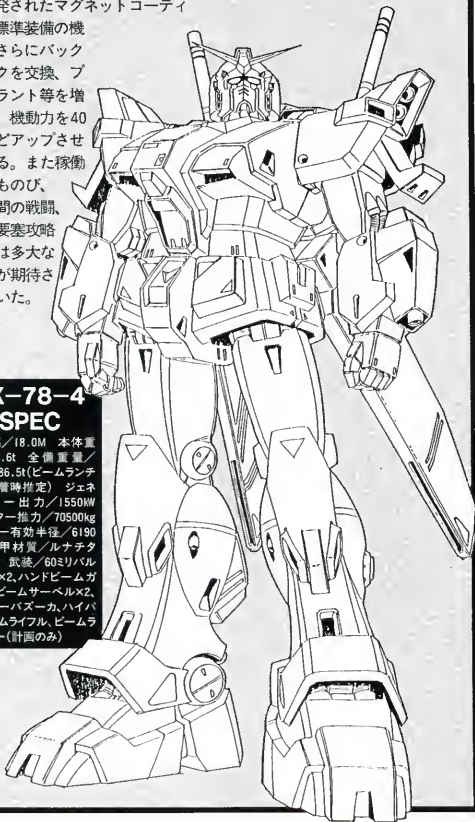
RX-78-4

ガンダム4号機

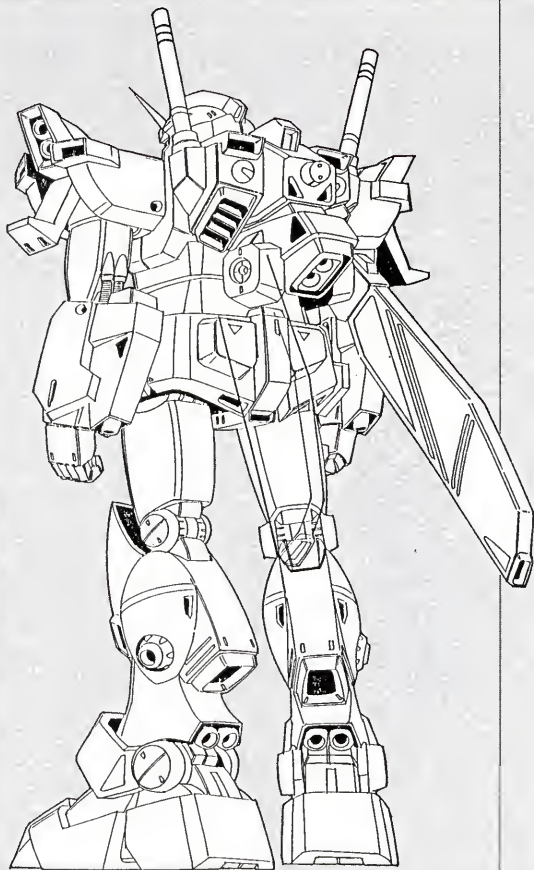
ソロモン、ア・バオア・クーにおいてはジオン進攻の主力として、RX-78-2を基本に宇宙戦仕様を開発されたマグネットコーティング標準装備の機体。さらにバックパックを交換、プロペラントを増設し、機動力を40%ほどアップさせている。また稼働時間ものび、長期間の戦闘、特に要塞攻略戦には多大な戦果が期待されていた。

RX-78-4
SPEC

頭頂高/18.0M 本体重量/42.6t 全備重量/80.2t、86.5t(ビームランチャー装着時推定) ジェネレーター出力/1550MW
スラスター推力/70500kg
センサー有効半径/6190M 装甲材質/ルナチタニウム 武装/60ミリバルカン砲×2、ハンドビームガン×2、ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ハイパービームライフル、ビームランチャー(計画のみ)



ガンダム4号機



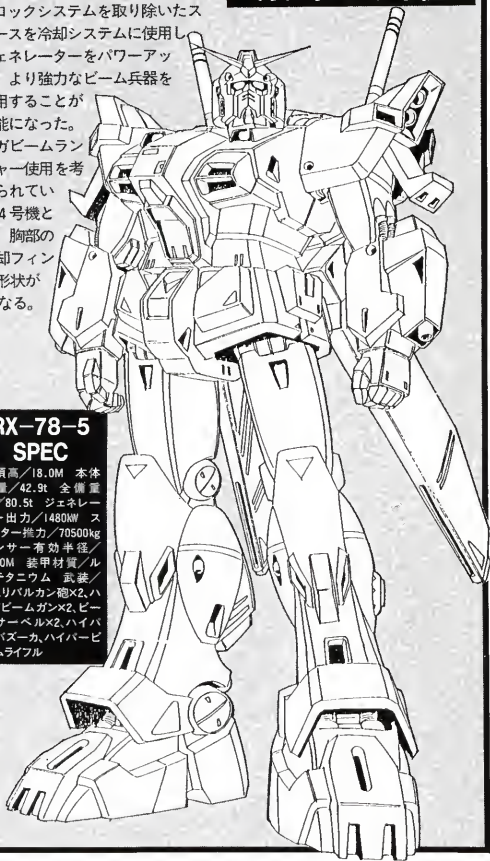
ガンダム4号機

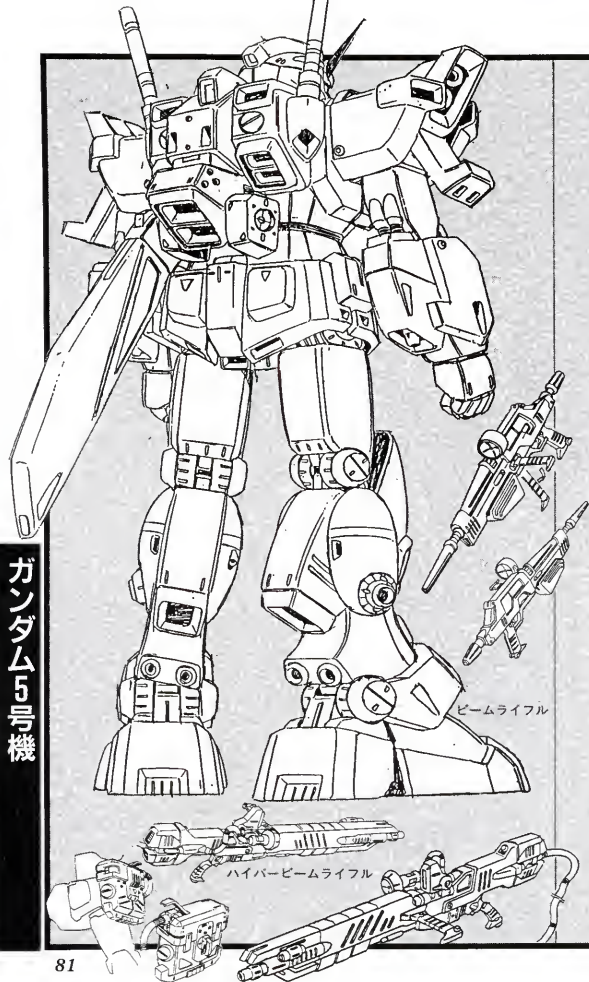
**RX-78-5
ガンダム5号機**

RX-78-4と同じ目的で開発された機体。4号機と同様にコアブロックシステムを取り除いたスペースを冷却システムに使用し、ジェネレーターをパワーアップ、より強力なビーム兵器を使用することが可能になった。メガビームランチャー使用を考えられていた4号機とは、胸部の冷却フィンの形状が異なる。

**RX-78-5
SPEC**

頭頂高/18.0M 本体重量/42.9t 全備重量/80.5t ジェネレーター出力/1480kW スラスター推力/70500kg センサー有効半径/6190M 装甲材質/ルナチタニウム 武装/60ミリバルカン砲×2、ハンドビームガン×2、ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ハイパービームライフル

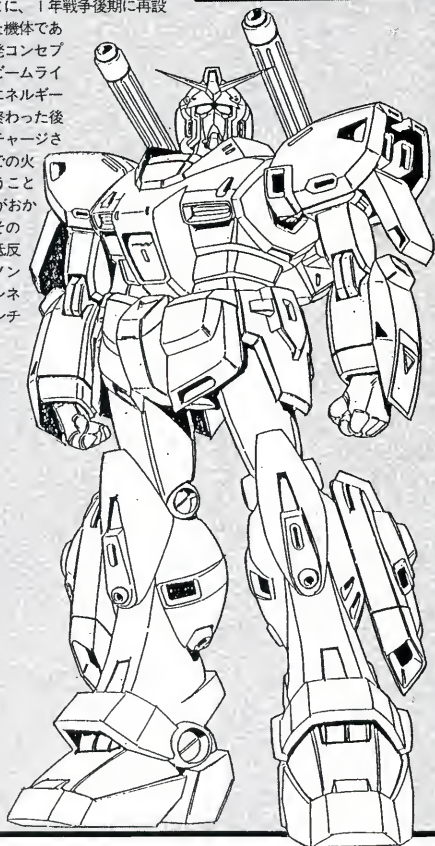
ガンダム5号機




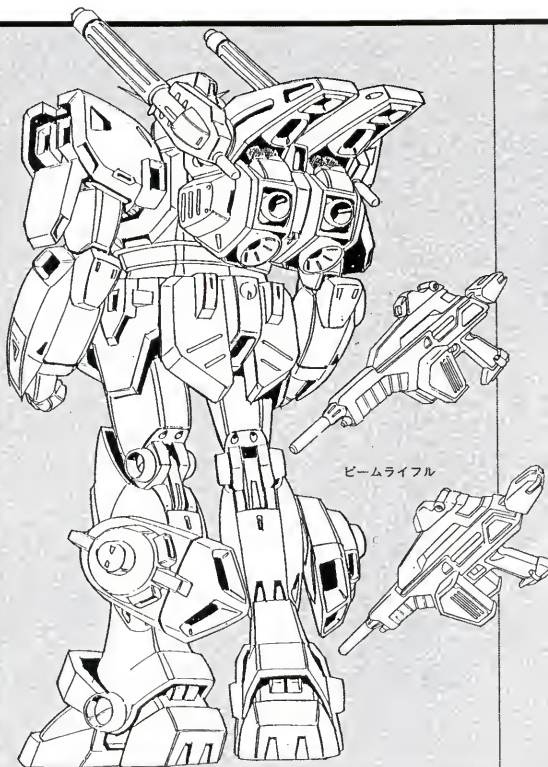
ガンダム5号機

RX-78-6
ガンダム6号機

RX-78-6ガンダム6号機は、ガンダム2号機で得られたデータをもとに、1年戦争後期に再設計された機体である。開発コンセプトは、ビームライフルのエネルギーを使い終わった後の、再チャージされるまでの火力を補うことに重点がおかれた。そのため、低反動キャノン砲やグレネードランチャーなど固定武装の強化が重視されている。



ガンダム6号機



RX-78-6 SPEC

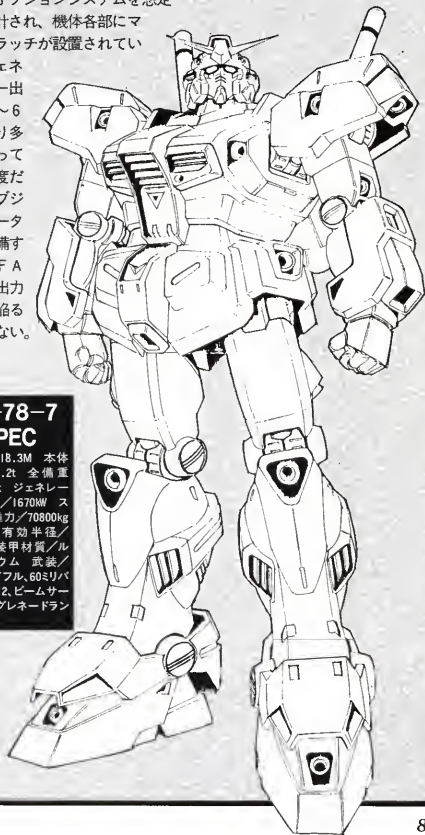
頭頂高/18.0M 本体重量/47.3t 全備重量/84.4t ジェネレーター出力/1480kW スラスター推力/70500kg センサー有効半径/5900M 装甲材質/ルナチタニウム 武装/300ミリキャノン砲×2、60ミリバルカン砲×2、グレネードランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル、ハイパーバズーカ、ハイパーハンマー

RX-78-7
ガンダム7号機

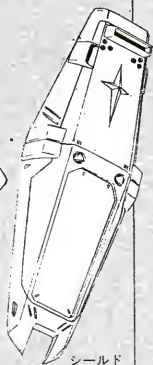
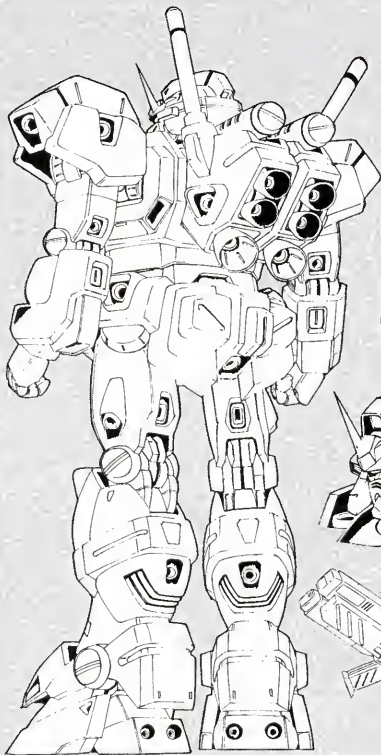
この機体は設計段階で終戦を迎え、基本フレーム以外は製作されることがなかった。当初からF A フルアーマーなどのオプションシステムを想定して設計され、機体各部にマウントラッチが設置されている。ジェネレーター出力は1〜6号機より多少上がっている程度だが、サブジェネレーターを装備するためF A 時でも出力不足に陥ることはない。

RX-78-7
SPEC

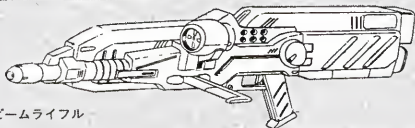
頭頂高/18.3M 本体重量/39.2t 全備重量/78.7t ジェネレーター出力/1670KW スラスター推力/70800kg センサー有効半径/6130M 装甲材質/ルナチタニウム 武装/ビームライフル、60ミリバルカン砲×2、ビームサーベル×2、グレネードランチャー


ガンダム7号機

ガンダム7号機



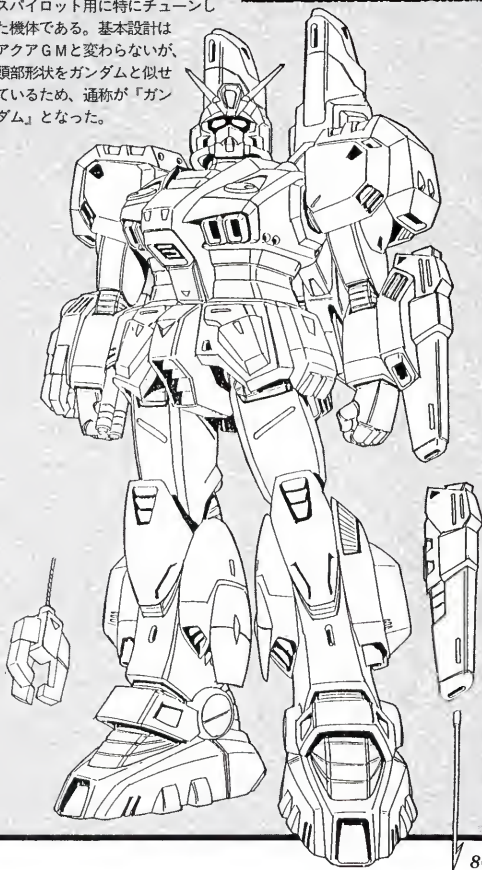
シールド



ビームライフル

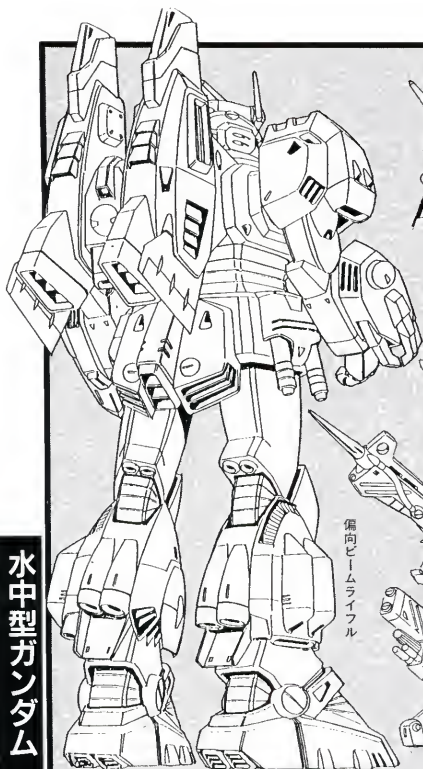
水中型ガンダムとはバランスの悪いアクアGMを再設計し、エースパイロット用に特にチューンした機体である。基本設計はアクアGMと変わらないが、頭部形状をガンダムと似せているため、通称が「ガンダム」となった。

RG-79-G1
水中型ガンダム

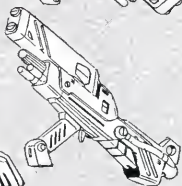
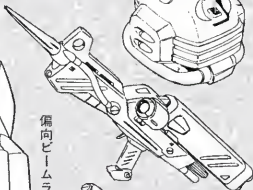


水中型ガンダム

水中型ガンダム



偏向ビームライフル



ライフルカバー

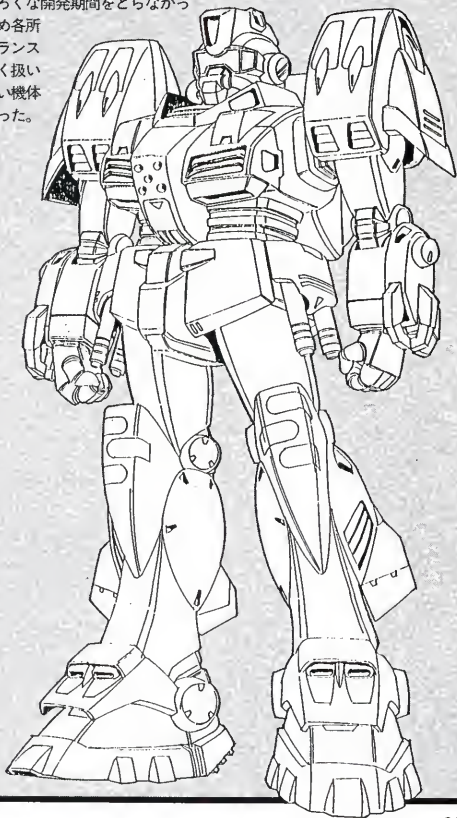


RAG-79-G1 SPEC

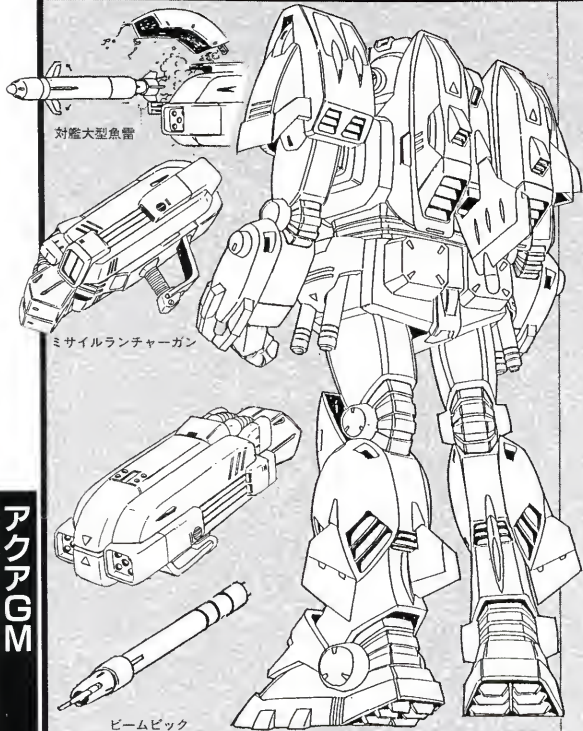
頭頂高/18.3M 本体重量/47.7t 全備重量/58.5t
 ジェネレーター出力/1330kW ハイドロジェット推力/9670
 kg センサー有効半径/4600M 装甲材質/チタン・セラ
 ミック複合材 武装/魚雷×2、ビームピック×2、炸裂式ハ
 ーブガン、水中用偏向ビームライフル

連邦軍はジオンの水中型MSのゲリラ戦法に対するため、急遽GMから水中型のMSを開発した。それがこのアクアGMである。だが、ろくな開発期間をとらなかったため各所のバランスが悪く扱いにくい機体になった。

RAQ-79
アクアGM



アクアGM



対艦大型魚雷

ミサイルランチャーガン

ビームピック

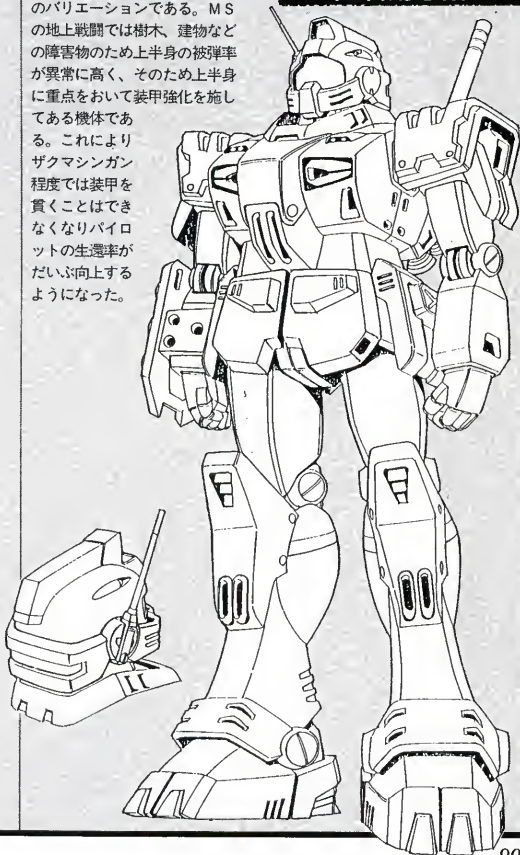


RAG-79 SPEC

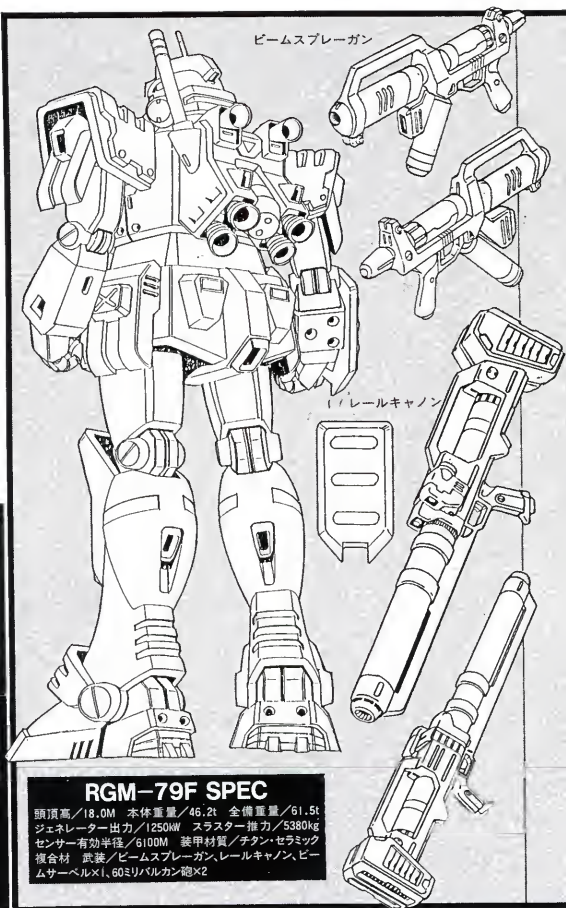
頭頂高/18.0M 本体重量/49.5t 全備重量/
64.3t ジェネレーター出力/1280KW ハイドロジェット
推力/8950kg センサー有効半径/4300M 装甲
材質/チタン・セラミック複合材 武装/魚雷ポッド×
8、大型魚雷×2、ミサイルランチャー、ビームピック×4

RGM-79F
陸戦用GM

陸戦用GMは、主にヨーロッパ戦線などで多く見られるGMのバリエーションである。MSの地上戦闘では樹木、建物などの障害物のため上半身の被弾率が異常に高く、そのため上半身に重点をおいて装甲強化を施してある機体である。これによりザクマシンガン程度では装甲を貫くことはできなくなりパイロットの生存率がだいぶ向上するようになった。



陸戦用GM

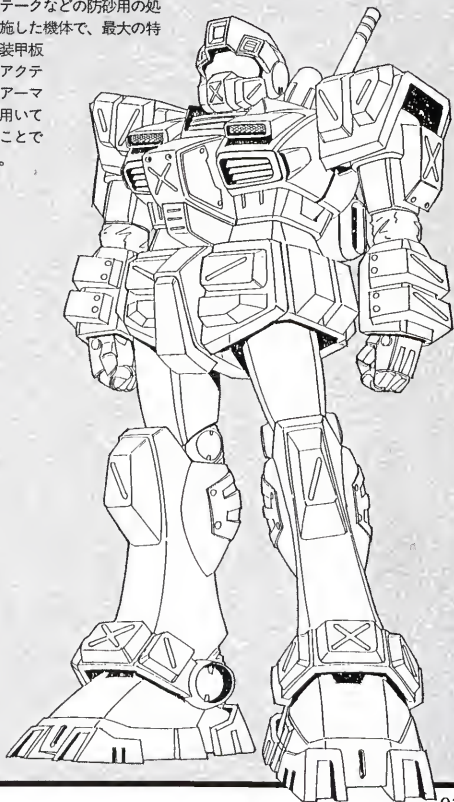


RGM-79F SPEC

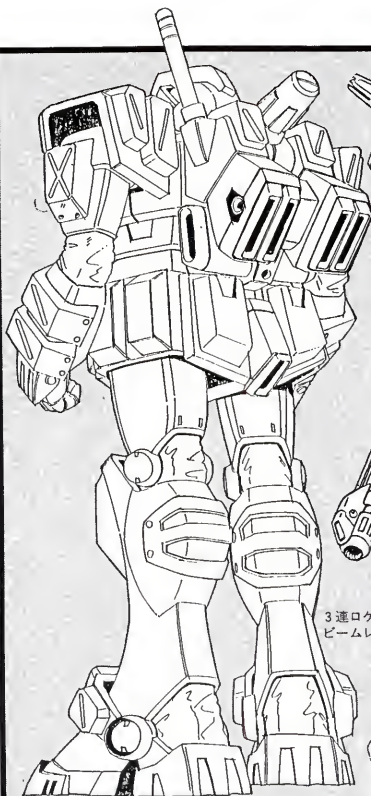
頭頂高/18.0M 本体重量/46.2t 全備重量/61.5t
 ジェネレーター出力/1250kW スラスター推力/5380kg
 センサー有効半径/6100M 装甲材質/チタン・セラミック
 複合材 武装/ビームスプレーガン、レールキャノン、ビームサーベル×1、60ミリバルカン砲×2

RGM-79SP
デザートGM

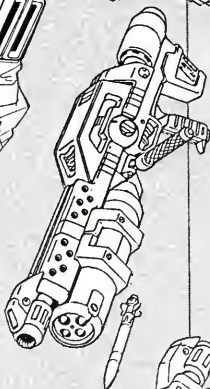
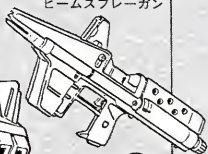
主にアフリカ北部から中近東にかけて使用された局地戦用バリエーションの一機であるデザートGMは、陸戦型GMの各関節、インテークなどの防砂用の処理を施した機体で、最大の特徴は装甲板にリアクティブアーマーを用いていることである。



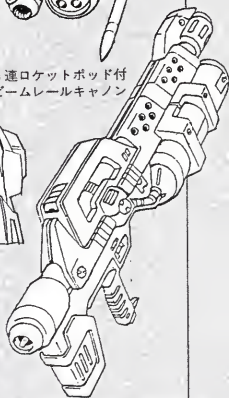
デザートGM



ビームスプレーガン



3連ロケットポッド付
ビームレールキャノン



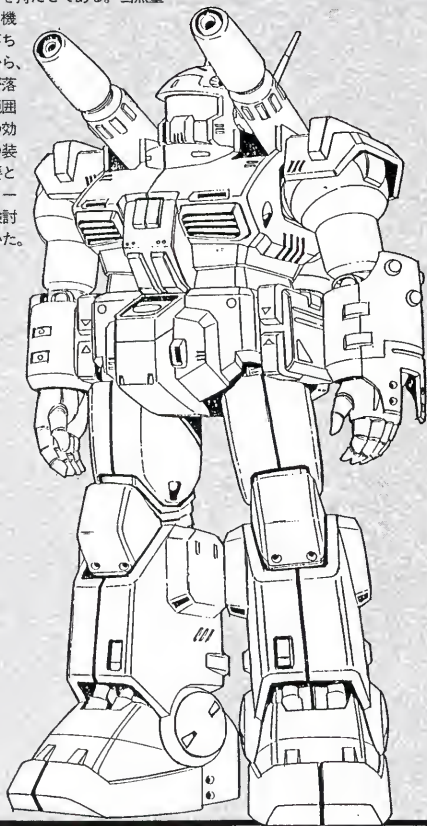
RGM-79SP SPEC

頭頂高/18.0M 本体重量/44.7t 全備重量/59.5t
ジェネレーター出力/1250kW スラスター推力/5780kg
センサー有効半径/6100M 装甲材質/チタン・セラミック
複合材 武装/ビームスプレーガン、レールキャノン(ミサ
イルポッド付)、ビームサーベルX1

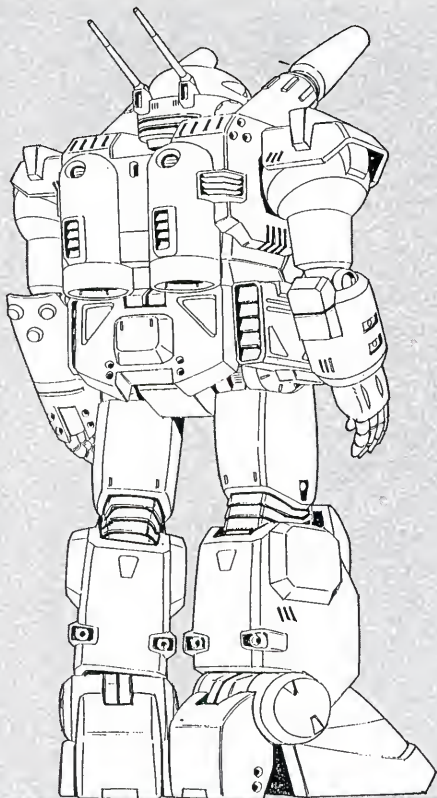
RX-77-1A

ガンキャノンA

ガンキャノンは中距離支援用のため、接近戦用の装備のかわりに厚い装甲を持たせてある。当然重量が増し機動力が落ちることから、機動力が落ちない範囲で最大の効果をもつ装甲が必要とされパターン案が検討されていた。



ガンキャノンA



ガンキャノンA

RX-77-1A SPEC

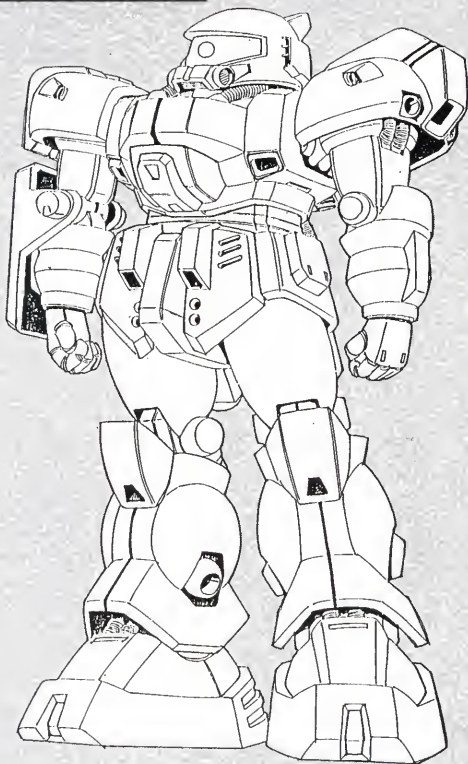
頭頂高/17.5M 本体重量/51t 全備重量/72t ジェネレーター出力/1380kW スラスター
推力/51800kg センサー有効半径/6000M 装甲材質/ルナチタニウム 武装/キャノン砲×
2、ビームライフル、60ミリバルカン砲、3連ミサイルポッド

MS-04 SPEC

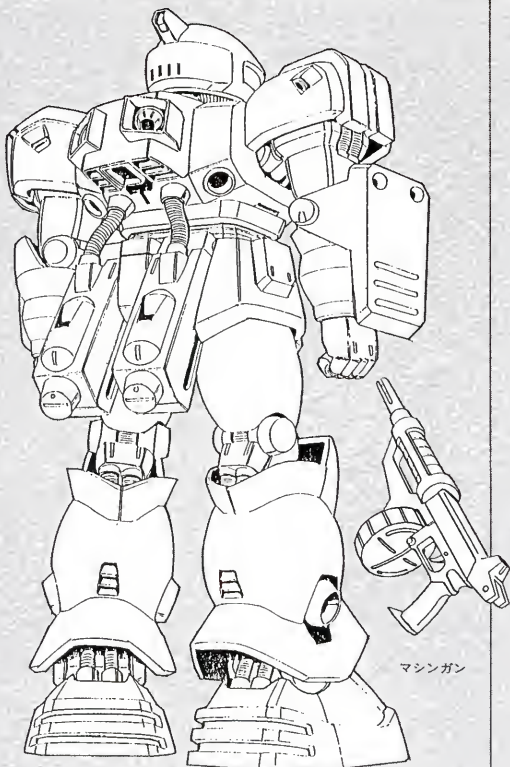
頭頂高/17.5M 本体重量/57.4t 全
備重量/72.5t ジェネレーター出力/953
kW スラスター推力/47000kg センサー
有効半径/2950M 装甲材質/超高張力
鋼 武装/100ミリマシンガン

MS-04

プロトタイプザク



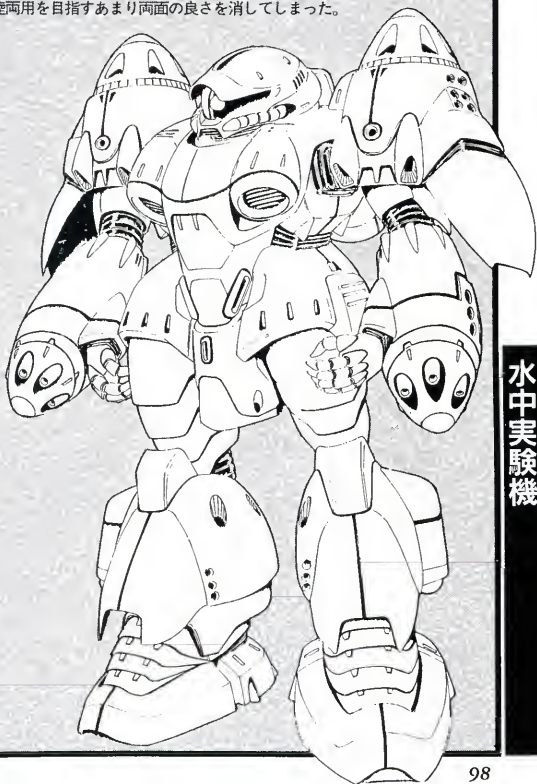
プロトタイプザク



MS-03プロトタイプザク3号機の装甲強化による重量増、出力不足からくる機動性の悪さを改良すべく造られたのがMS-04である。ミノフスキー物理学を応用して新たに開発された高出力ジェネレーター装備により、MS-03の2倍以上の機動力をもち装甲も強化された。

MSM-02はザクマリンタイプのデータをもとにZIMMAD社が開発した水陸両用のMSである。ハイドロジェットを装備、水中での運動性を10~20%向上させたが軍の要求には満たなかった。陸上での機動性も悪く水陸両用を目指すあまり両面の良さを消してしまった。

MSM-02 水中実験機



水中実験機



背部対空対艦
ミサイル



背部
収納式バルカンポッド

水中実験機



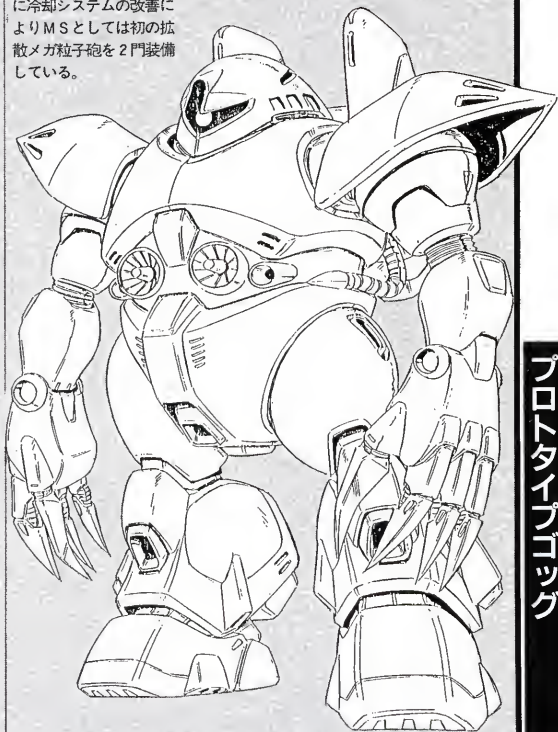
MSM-02 SPEC

頭頂高/17.7M 本体重量/58.3t 全備重量/95.4t ジェネレーター出力/1370kW スラ
スター推力/61400kg センサー有効半径/3150M 装甲材質/チタン・セラミック複合材 武
装/ミサイルランチャー、対艦・対空ミサイル、腕部バルカン砲

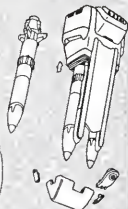
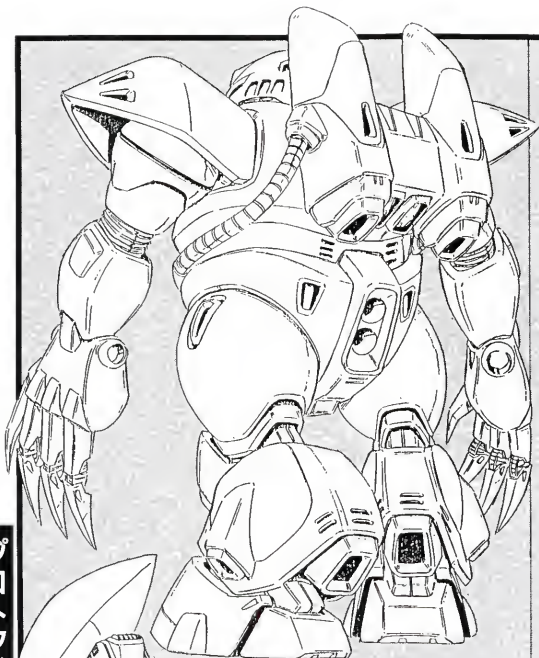
MSM-03-1

プロトタイプゴッグ

ザクマリンタイプのデータをもとに水陸両用MSとして再設計されたのがプロトタイプゴッグである。水中での抵抗をなくすために凹凸を減らし、武装も水流が乱れないように固定武装とした。さらに冷却システムの改善によりMSとしては初の拡散メガ粒子砲を2門装備している。



プロトタイプゴッグ



ハンド魚雷ポッド

MSM-03-1 SPEC

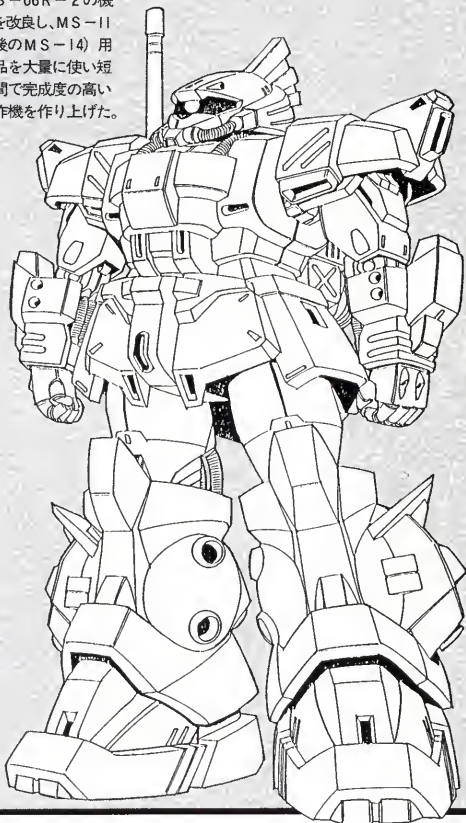
頭頂高/17.5M 本体重量/58.4t
全備重量/79.6t ジェネレーター出力/2690kW スラスター推力/4300kg センサー有効半径/3200M 装甲材質/チタン・セラミック複合材 武装/拡散メガ粒子砲×2、ハンド魚雷ポッド×2

MS-06R-3

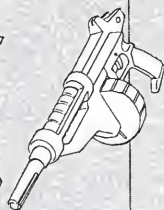
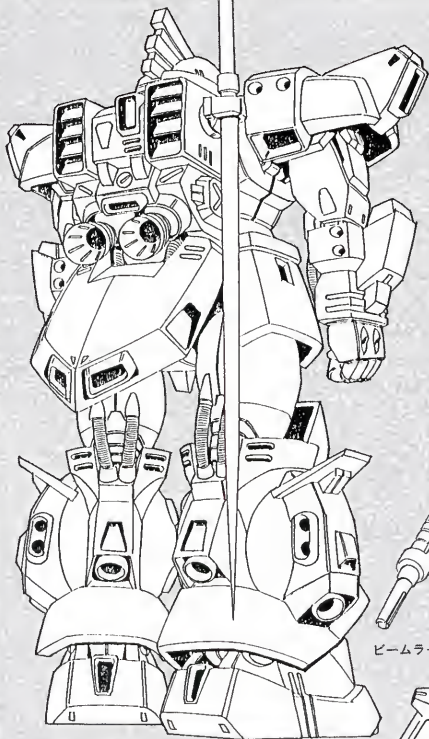
高機動型ザク(ゲルググ先行試作型)

ガンダムに対抗できる機動力を得るためにザクを使い機構試作用に造られたのがこの機体である。

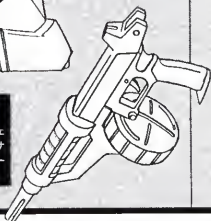
MS-06R-2の機体を改良し、MS-11(後のMS-14)用部品を大量に使い短期間で完成度の高い試作機を作り上げた。



高機動型ザク(ゲルググ先行試作型)



ビームライフル



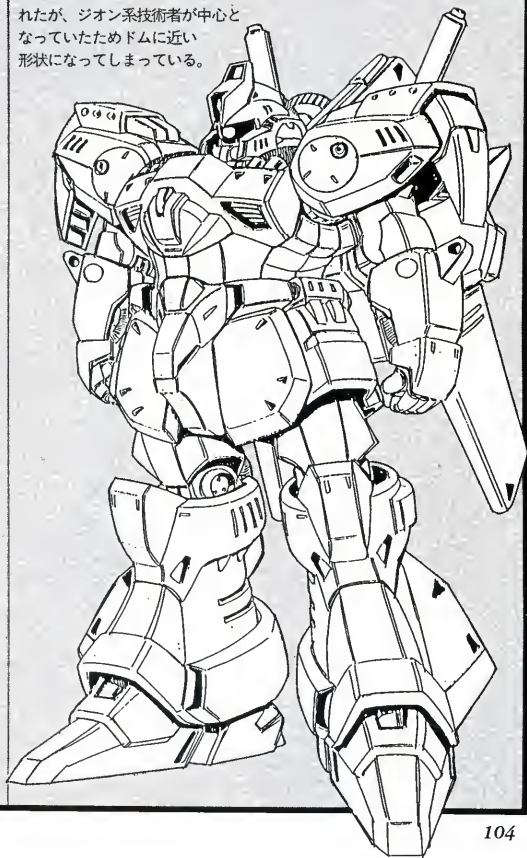
MS-06R-3 SPEC

頭頂高/19.0M 本体重量/43.5t 全備重量/73.7t ジェネレーター出力/1390kW スラスター推力/56600kg センサー有効半径/6200M 装甲材質/超高張力鋼 武装/ビームライフル、ヒート剣、50ミリバルカン砲×2

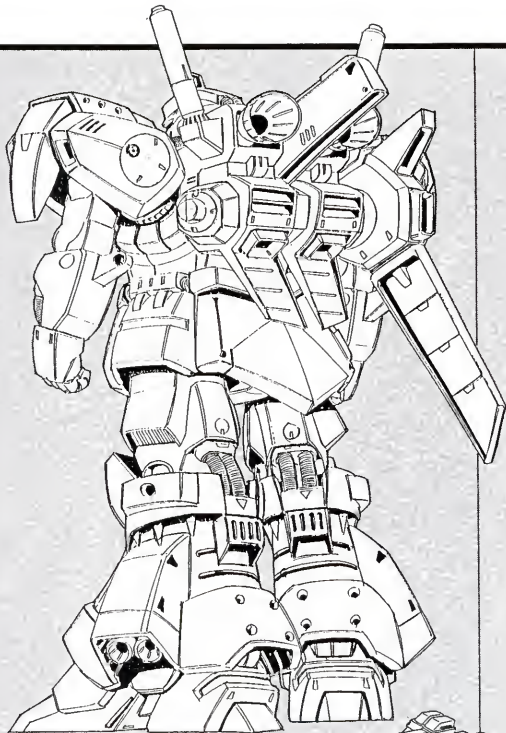
RX-098

プロトタイプリックディアス

リックディアスの元となったこの機体は、装甲にガンダリウムガンマを最初にしたためガンマガンダムのコードネームを与えられたが、ジオン系技術者が中心となっていたためドムに近い形状になってしまっている。

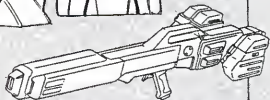


プロトタイプリックディアス



RX-098 SPEC

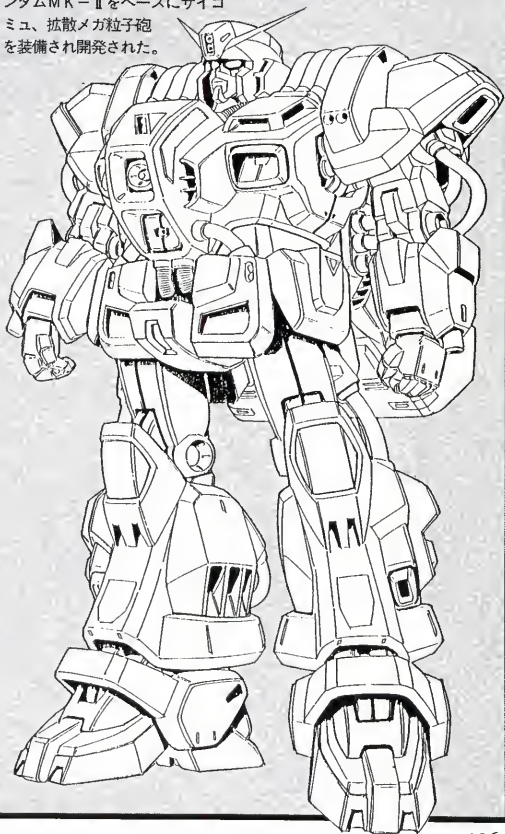
頭頂高/19.0M 本体重量/40.5t
 全備重量/59.7t ジェネレーター出
 力/1790KW スラスター推力/78500kg
 センサー有効半径/11500M 装甲材
 質/ガンダリウム合金 武装/クレイバ
 ズーカ、ハイパービームサーベル



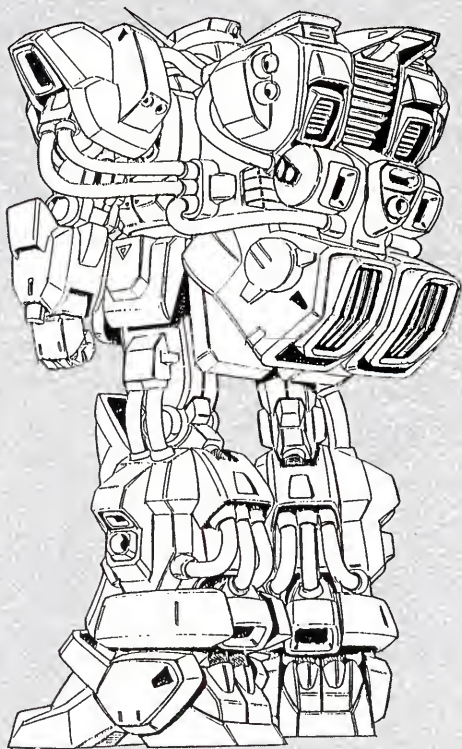
クレイバズーカ

ジオン、連邦の技術を結集した最強のガンダムという開発趣旨のもとに造られたMRX-007は、ガンダムMK-IIをベースにサイコミュ、拡散メガ粒子砲を装備され開発された。

MRX-07
プロトタイプサイコガンダム



プロトタイプサイコガンダム

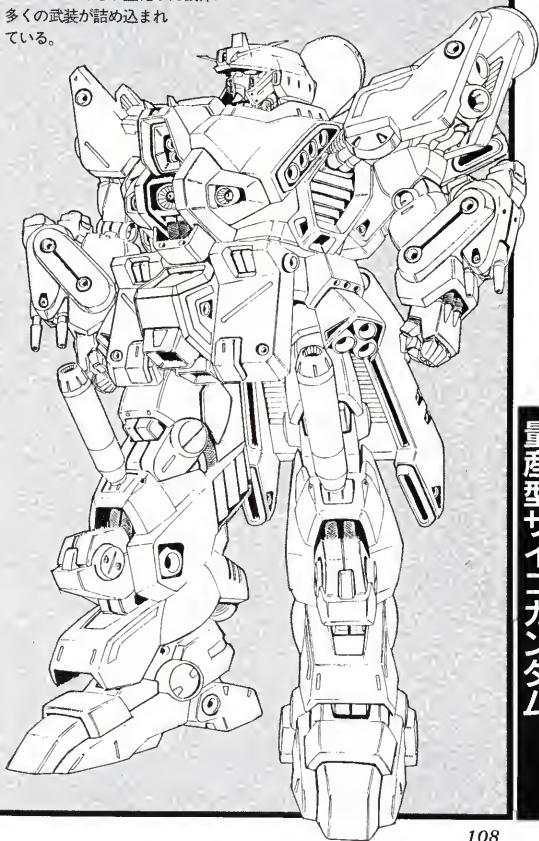


MRX-07 SPEC

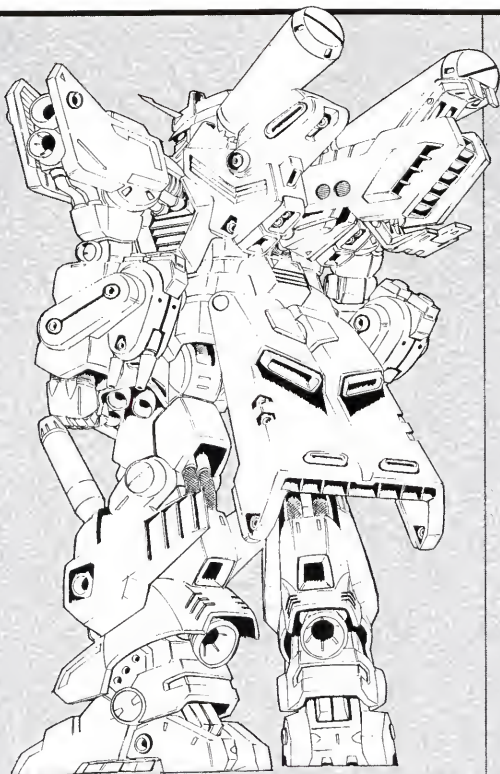
頭頂高／19.3M 本体重量／77.4t 全備重量／110.9t ジェネレーター出力／3700kW スラ
スター推力／81100kg センサー有効半径／11300M 装甲材質／チタン合金セラミック複合材
武装／拡散メガ粒子砲×1、ビーム砲×2(有線サイコミュシステム搭載)

MRX-011はティターンズのエースパイロット用に開発された機体である。エウーゴとの短期決戦用にMK-IIを小型化した機体に多くの武装が詰め込まれている。

MRX-011
量産型サイコガンダム



量産型サイコガンダム

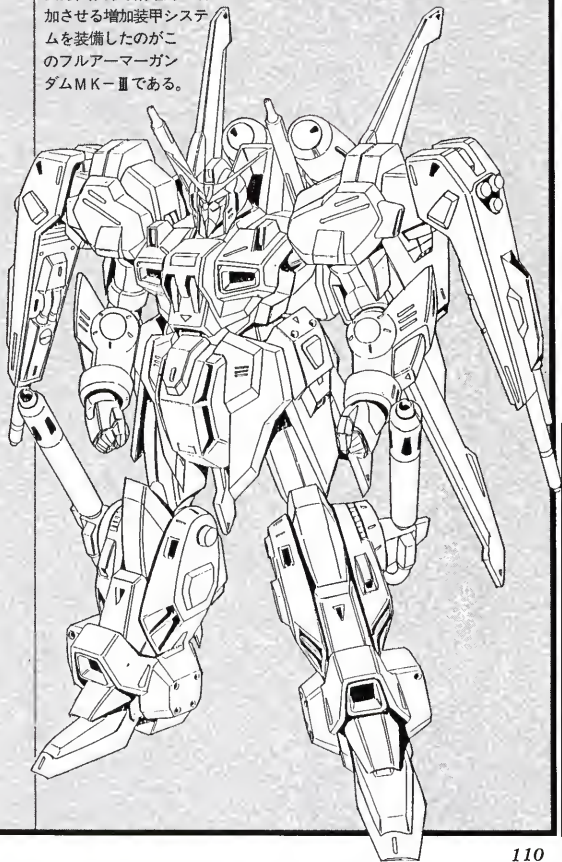


MRX-011 SPEC

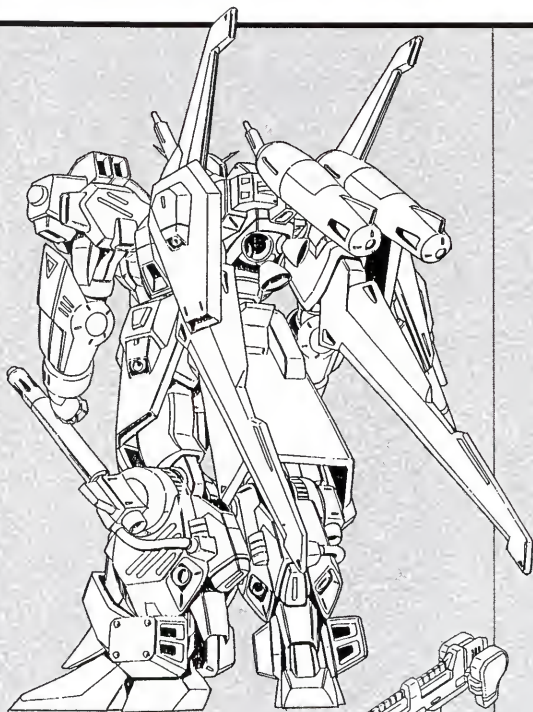
頭頂高/27.2M 本体重量/83.0t 全備重量/136.4t ジェネレーター出力/15280KW スラ
スター推力/●●●kg センサー有効半径/10300M 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/
収納式ハイメガバスター、拡散メガ粒子砲×3、有線ビーム砲×2、インコムユニット×2、グレネードラン
チャー×2、ハイパービームサーベル(ビームキャノン兼用)×2

機動性を重視され開発されたガンダムMK-Ⅲの性能を殺さず、火力、推力を飛躍的に増加させる増加装甲システムを装備したのがこのフルアーマーガンダムMK-Ⅲである。

FA-007GⅢ
フルアーマーガンダムMK-Ⅲ

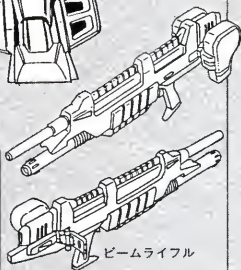


フルアーマーガンダムMK-Ⅲ



FA-007GⅢ SPEC

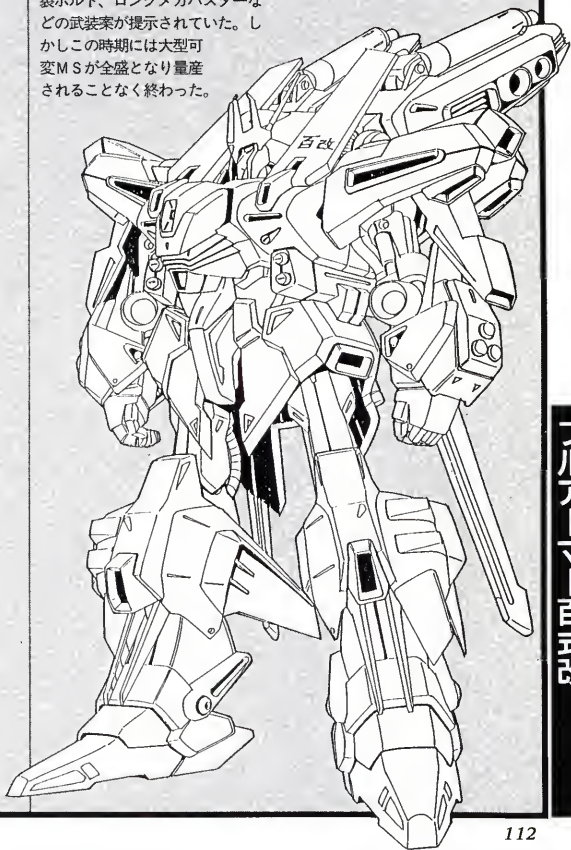
頭頂高/19.5M 本体重量/47.2t 全備重量/
62.1t ジェネレーター出力/3040kW スラスター推
力/141200kg センサー有効半径/11500M 装甲
材質/ガンダリウム合金 武装/ハイパービームキャ
ノン×2、ビームキャノン×2、シールドキャノン×2、グレネ
ードランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル



ビームライフル

この機体は百式改の武装強化案として提出されたプランである。ビームキャノン。メガ粒子砲、炸裂ボルト、ロングメガバスターなどの武装案が提示されていた。しかしこの時期には大型可変MSが全盛となり量産されることなく終わった。

EA-100S
フルアーマー百式改



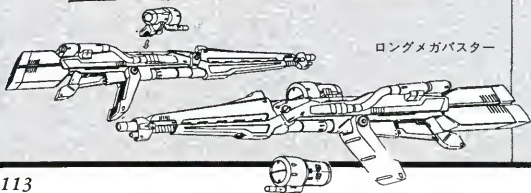
フルアーマー百式改

FA-100S SPEC

頭頂高/19.2M 本体重量/39.2t 全備重量/79.8t ジェネレーター出力/2015kW スラスタ推力/11300kg(推定) センサー有効半径/12500M 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/ビームライフル、ビームサーベル×2、ビームバルサガン×2、ミサイルポッド(腰、足)、メガ粒子砲、ビームキャノン×2、炸裂ボルト、ロングメガバスター



ビームキャノン&
リフレクターパネル

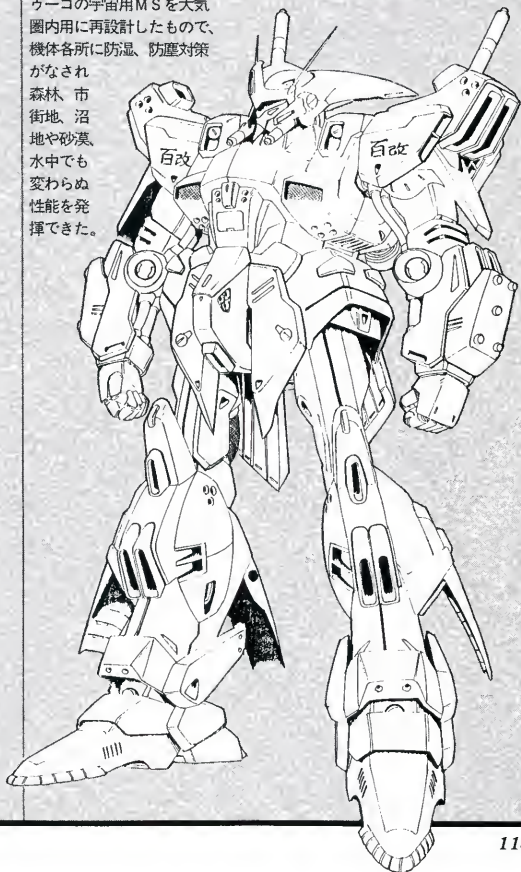


ロングメガバスター

MSK-100S

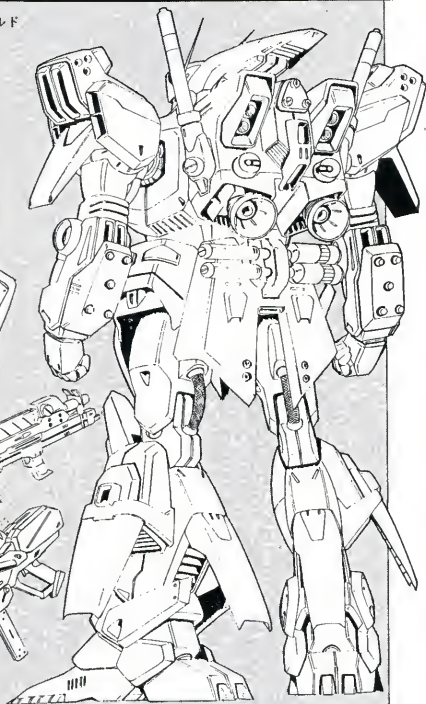
陸戦用百式改

陸戦用百式改は、ティターンズの新型可変MSにネモ、GMⅢでは対抗できなくなったカラバがエウゴの宇宙用MSを大気圏内用に再設計したもので、機体各所に防湿、防塵対策がなされ森林、市街地、沼地や砂漠、水中でも変わらぬ性能を発揮できた。



陸戦用百式改

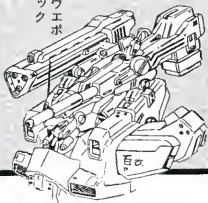
シールド



レールガン付
ビーム
ライフル



背部ウエポ
ンラック

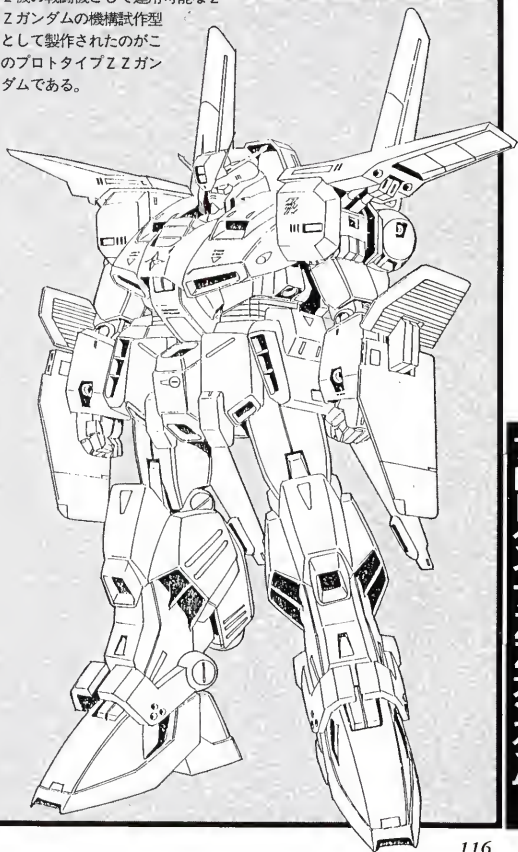


MSK-100S SPEC

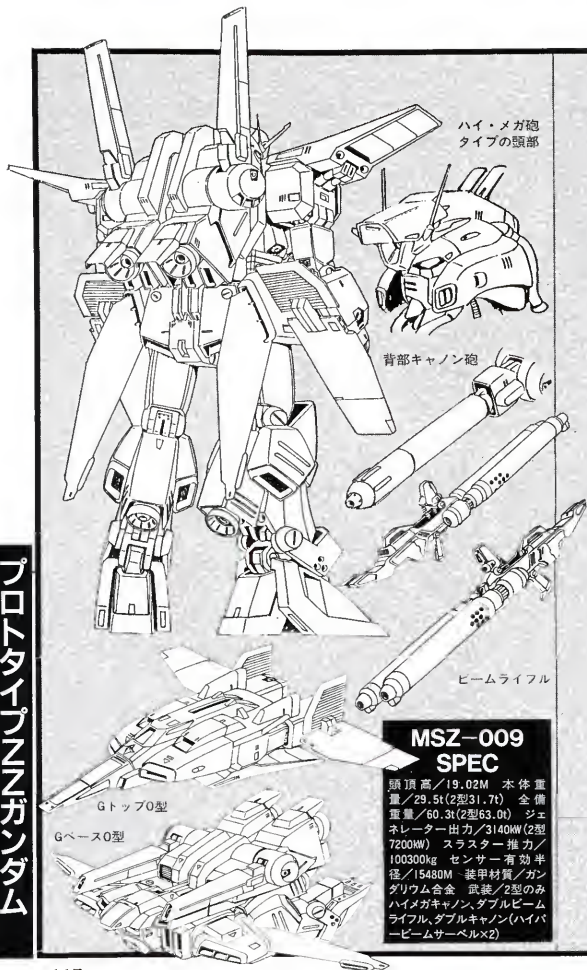
頭頂高/19.2M 本体重量/39.2t 全備重量/
63.6t ジェネレーター出力/2015MW スラスター推
力/70800kg センサー有効半径/10840M 装甲
材質/ガンダリウム合金 武装/ビームライフル、60
ミリバルカン砲、ビームサーベル、ハンドグレナード、グレ
ネードランチャー、3連ミサイルポッド(オプション)、中距
離ビームキャノン(オプション)

Zガンダムなどの可変MSの思想を受け継ぎながら、分離合体、2機の戦闘機として運用可能なZガンダムの機構試作型として製作されたのがこのプロトタイプZZガンダムである。

MSZ-009
プロトタイプZZガンダム



プロトタイプZZガンダム



ハイ・メガ砲
タイプの頭部

背部キャノン砲

ビームライフル

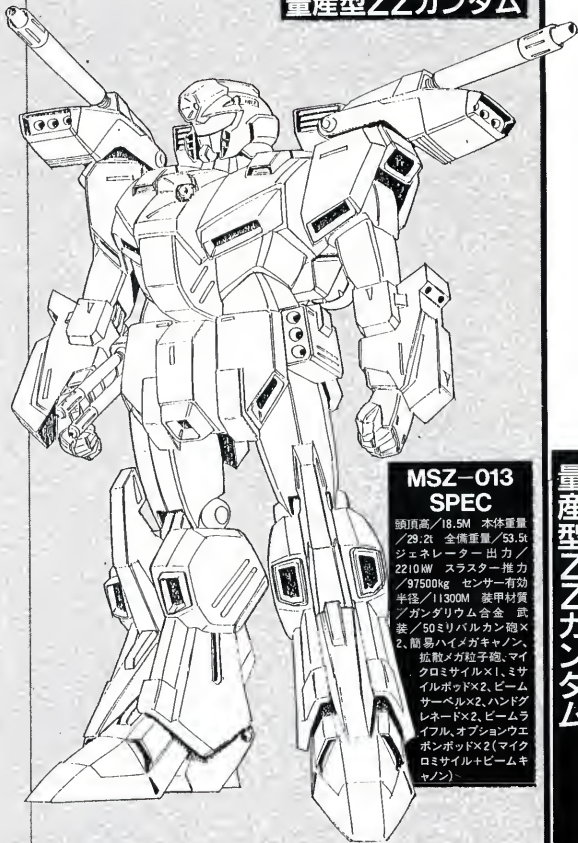
Gトップ0型

Gベース0型

MSZ-009 SPEC

頭頂高/19.02M 本体重量/29.5t(2型31.7t) 全備重量/60.3t(2型63.0t) ジェネレーター出力/3140kW(2型7200kW) スラスター推力/100300kg センサー有効半径/15480M 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/2型のみハイメガキャノン、ダブルビームライフル、ダブルキャノン(ハイパービームサーベル×2)

MSZ-013 量産型ZZガンダム

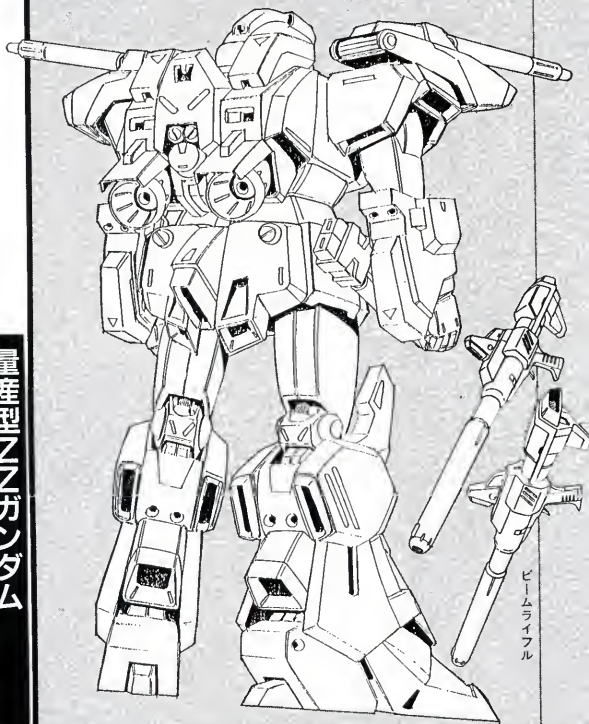


MSZ-013 SPEC

頭頂高/18.5M 本体重量
 /29.2t 全備重量/53.5t
 ジェネレーター出力/
 2210kW スラスター推力
 /97500kg センサー有効
 半径/11300M 装甲材質
 /ガンダリウム合金 武
 装/50ミリバルカン砲×
 2、簡易ハイメガキャノン、
 拡散メガ粒子砲、マイ
 クロミサイル×1、ミサ
 イルポッド×2、ビーム
 サーベル×2、ハンドグ
 レネード×2、ビームラ
 イフル、オプションウエ
 ポンポッド×2(マイク
 ロミサイル+ビームキ
 ャノン)

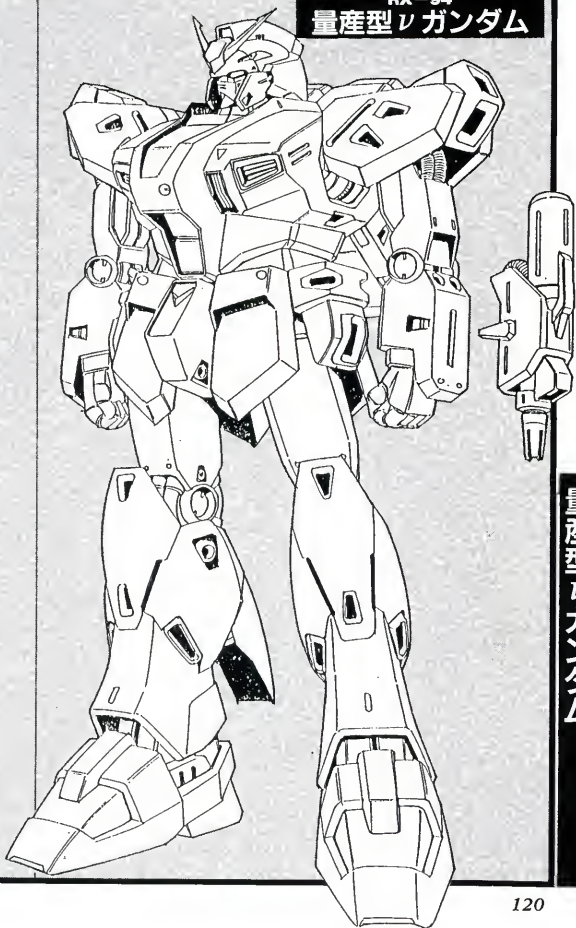
量産型ZZガンダム

量産型ZZガンダムはハイメガキャノンなどの強力な固定武装をもつZZガンダムを、コアブロックシステム、変形合体機構を廃止してコストダウン、量産性を高めた機体である。しかし、ZZ同様多くのビーム兵器を使うために量産機としては高出力のジェネレーターを搭載することから生産コストはあまり下がらず、メンテナンスの悪さも加わって高価な量産機となってしまった。

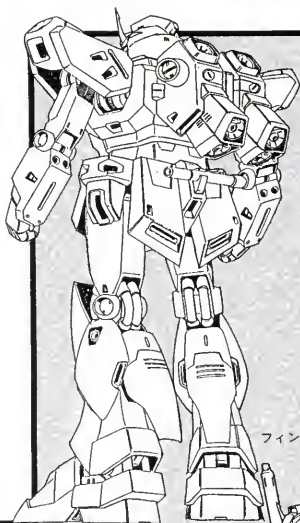


量産型ZZガンダム

RX-94
量産型レガンダム

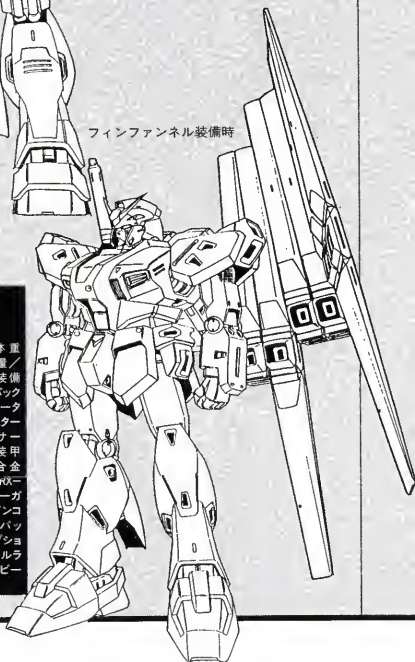


量産型レガンダム



この機体は、最強のMSといわれたレガンダム
の量産機として設計され
た機体である。ネオ・ジ
オンの主力であるギラド
ーガやヤクトドーガが量
産された場合を考え、ジ
ェガン以上の主力MSを
必要とした Rond・ベル
隊が打ち出したプランで
ある。

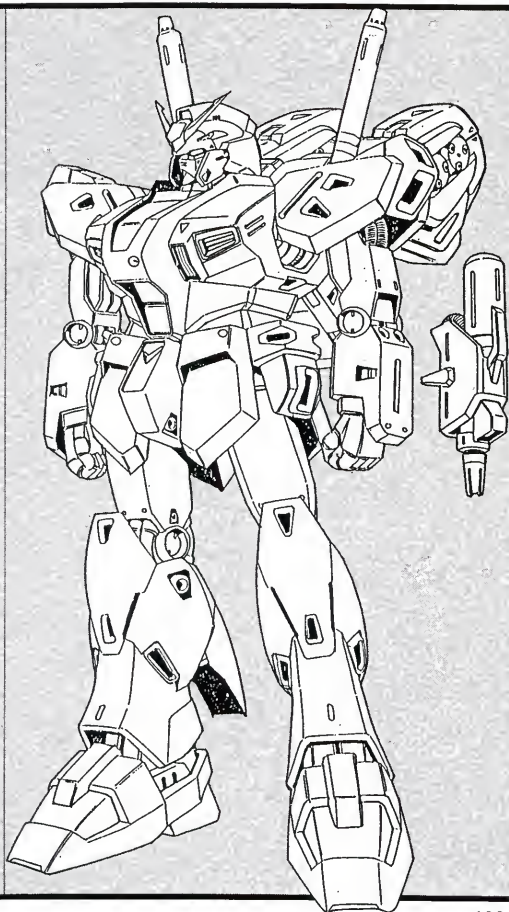
フィンファンネル装備時



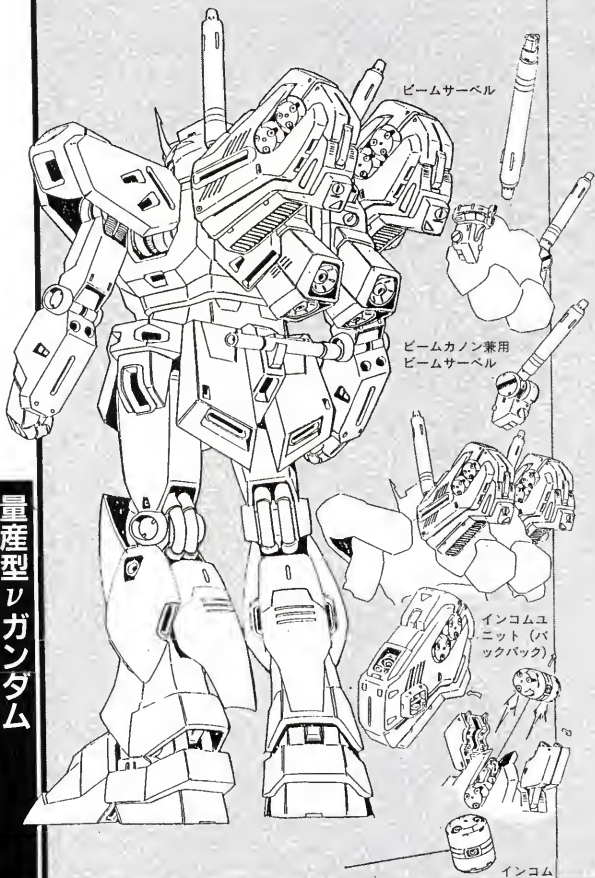
量産型レガンダム

RX-94 SPEC

頭頂高/21.2M 本体重量/25.6t 全備重量/64.5t(フィンファンネル装備時推定)、58t(インコムバック装備時推定) ジェネレーター出力/2500kW スラスタ推力/91000kg センサー有効半径/19400M 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/ビームライフル(RX-98と同形)、ビームスプレーガン、ビームサーベル×1、インコムユニット(オプションバック)、フィンファンネル(オプションバック)、ビームサーベルラック、ハイパーバズーカ、ビームキャノン、ミサイル×4



量産型ガンダム



V作戦	57
フォーミュラ	66
フォン・ブラウン市	59
複合照準機	65
フラナガン機関	57
プロペラント	54
北米オーガスタ連邦軍基地	57
ホロ・キューブ系大処理能力コンピュータ	62
マ行	
マイクロハニカム構造	66
マスドライバー	66
マス・ドライバー基地	59
マフティー動乱	42
ミッションパック	66
ミノフスキークラフト	66
ミノフスキークラフト・ユニット	64
ミノフスキーク物理学	66
ムーバブル・フレイム	38
メイン・スラスター	54
メールシュトローム作戦	59
メガ粒子砲	44
目標認識式自己誘導クルーズミサイル	65
モノトーン社	61
MSクラッカー	65
ヤ行	
ヤシマ重工	66
ラ行	
リニア・シート	38
ルウム戦役	57
レールキャノン	66
連邦軍	38
連邦政府首脳	42
ロケット弾	65
ロンド・ベル隊	61
ワ行	
惑星ペズン	59

ジオニック社	54
ジオン狩り	58
ジオン公国	34
支持ジャッキ	65
シナプス・プロセッサ	62
シャトルハウゼン	61
ジャブロー	58
ジュピトリス	4
新規格MS	42
スペースノイド	61
ゼダンの門	59
タ行	
大出力スラスター	54
第二次ネオ・ジオン抗争	42
耐ビームコーティング	54
タカール	4
ダブリン	61
長距離メガビーム砲	65
ティターンズ	38
テキサスコロニー	61
デラーズ軍	59
ナ行	
NT専用機	40
ニュータイプ能力	40
ハ行	
ハードポイント	64
バーニア	54
ハマーン戦争	60
バルカン砲	64
反重力システム	66
反地球連邦運動	42
汎用誘導ミサイル	65
ビームガン	44
ビームサーベル	54
ビームライフル	64
ビット	54
ビンソン計画	57
ファンネル	54
ファンネル・ホール	54

RX-78-7 ガンダム7号機	15、84
RX-94 量産型レガンダム	32、120
RX-098 プロトタイプリックディアス	25、104

兵器&用語

ア行

AMBAC	64
アクシズ	38
アステロイドベルト	38
アナハイム・エレクトロニクス	44
ア・バオア・クー	57
アポジモーター	44
異種結晶化結合	66
1年戦争	34
インコム	44
エウーゴ	38
エネルギーCAP	44
エレズム	56

カ行

ガンダリウム・ガンマ	59
旧公国軍	34
強化人間	40
グラナダ	44
グリプス1	59
グリプス2	59
グリプス戦役	38
グレネード	65
コア3	61
公国軍残党	34
公国軍残党狩り	58
コロニー公社	54
コロニーレーザー	59
コントリズム	56

サ行

サイココミュニケーターシステム	59
サイコ・フレイム	6
サナリイ社	54
シールド	64

MS大図鑑PART.4「MS開発戦争編」

索引

INDEX

●「機動戦士ガンダムF90」「MSコレクション」に登場した主要MS及び、主要兵器と主要用語をアルファベットおよび50音順にまとめました。見出しの単語を選び出し、記載されているページ数を見て下

さい。その単語の解説、あるいは関連する事柄がわかるようになっています。なお、MSに関しては、形式番号をアルファベット順に検索できるようになっています。

MS

F90	ガンダム F90	10、68
F90A	F90 長距離進攻仕様	12、72
F90D	F90 近接戦仕様	13、74
F90E	F90 強行偵察仕様	76
F90S	F90 長距離支援仕様	11、70
FA-007GIII	フルアーマーガンダム Mk.III	27、110
FA-100S	フルアーマー百式改	28、112
MRX-007	プロトタイプサイコガンダム	26、106
MRX-011	量産型サイコガンダム	26、108
MS-04	プロトタイプザク	21、96
MS-06R-3S	高機動型ザク	24、102
MSK-100S	百式改陸戦仕様	29、114
MSM-02	水中実験機	22、98
MSM-03-1	プロトタイプゴッグ	23、100
MSZ-009(-2)	プロトタイプZZガンダム	30、116
MSZ-013	量産型ZZガンダム	31、118
RAG-79-G1	水中型ガンダム	16、86
RGM-79	デザートGM	19、92
RGM-79	陸戦用GM	18、90
RX-77-1A	ガンキャノンA	20、94
RX-78-4	ガンダム 4号機	14、78
RX-78-5	ガンダム 5号機	14、80
RX-78-6	ガンダム 6号機	15、82

STAFF

企画

株式会社メディアワークス
第4編集部・書籍編集課（安藤利明）

構成・編集

仲重舎
井上 徹
渡辺利浩
磯辺健一

装丁

タケモトアツシ（t-DESIGN LAB.）

カバーイラスト

As'maria

デザイン

仲重舎
シイバミツヲ&ケンジ

協力

株式会社サンライズ（井上幸一）
株式会社スタジオ・ハード
株式会社ゼネラルプロダクツ
株式会社マインド

宇宙世紀ボックス 機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.4【MS開発戦争編】

CONTENTS

MS戦史 MS War History	2
MS大図鑑 MS Catalogue	10
MS開発史 MS Development History	33
MS性能比較 An ability symmetry of MS	45
ガンダム・オフィシャル・レポート GUNDAM Official Report	55
歴史 History	56
機動兵器 Mobile Weapon	62
MS設定資料集 MS Design Collection	67
MS用語辞典 MS Glossary	44, 54, 66
索引 Index	127

※本書は1991年6月に株式会社バンダイ・出版課より発行されたエンターテインメントバイブル・シリーズ「機動戦士ガンダム MS大図鑑Part4【MS開発戦争編】」を復刻した物です。文章・データに2005年現在と合致しない部分がございますが、原書のままですのでご容赦下さい。
※ご協力いただいた方々の所属は発行当時のまま記載しております。

発行 2005年3月20日 初版発行

発行者 佐藤辰男

発行所 株式会社メディアワークス
〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8東京YWCA会館
TEL03-5281-5243(編集)

発売元 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
TEL03-3238-8605(営業)

印刷所 共同印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えします。

©創通エージェンシー・サンライズ

分売不可

Printed in Japan

〔R〕本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡下さい。

MS ENCYCLOPEDIA

NO.04

MS大図鑑
[PART.4 MS開発戦争編]

MOBILE SUIT GUNDAM F90
MMSV MISSING MOBILE SUIT VARIATION

MS NO.04

MS大図鑑
[PART.4_MS開発戦争編]

ENCYCLOPEDIA



MOBILE SUIT GUNDAM F90
M-MSV MISSING MOBILE SUIT VARIATION

MS

NO.04

ENCYCLOPEDIA

.....

MOBILE SUIT GUNDAM F90

M-MSV MISSING MOBILE SUIT VARIATION

MS NO.04 ENCYCLOPEDIA

MOBILE SUIT GUNDAM F90

M-MSV MISSING MOBILE SUIT VARIATION

NO. 4

MS 用 表 紙 用 紙

PART. 4

MS 大 図 表

NO. 2

MS大図鑑

MS大図鑑

「PART.4

MS開発競争編」

NO.04